

【 医 学 部 】

第 4 学 年

<生命科学・社会医学系>

社会医学

衛生学・予防医学……………4- 1

公衆衛生学……………4- 5

衛生学・公衆衛生学実習……………4- 8

法医学……………4-11

基礎上級…………… 別 途

<臨床医学系>

消化器Ⅱ……………4-13

腎・泌尿器Ⅱ……………4-15

脳・神経Ⅱ……………4-17

成長・発達Ⅱ……………4-20

生殖・周産期……………4-24

運動器・リハビリテーション……………4-26

皮膚・形成……………4-28

視 覚……………4-30

頭頸部・口腔……………4-32

精 神……………4-34

放射線・画像……………4-37

麻酔・救急……………4-39

感染・検査……………4-41

臨床薬理学……………4-42

性差医療……………4-44

東洋医学Ⅲ……………4-45

<総合教育>

医療入門Ⅰ

症候論とケーススタディ・高齢者総合診療
……………4-46

臨床実習入門……………4-47

医療と社会……………4-48

プライマリケアと地域医療……………4-50

科目・コース(ユニット)名	社会医学(衛生学・予防医学)【医学4】						
(英語名称)	Social Medicine(Hygiene and Preventive Medicine)						
担当責任者	福島 哲仁						
開講年次	4年	開講学期	1期	必修/選択	必修	授業形態	講義

概要/方針等

本学では社会医学コースは衛生学・予防医学、公衆衛生学、衛生学・公衆衛生学実習、法医学ユニットからなる。各ユニットはいずれも人の命を社会との関わりから捉える学問で、人の受精から死亡までを扱う。生命科学系が生命現象の解明、疾病の原因探求など生物学の応用という側面があるのに対し、社会医学は疾病の予防、健康の増進、人権の保障など臨床医学の応用という側面が強い。

衛生学・公衆衛生学の授業では、医学教育モデル・コア・カリキュラムの教育内容ガイドラインに示された項目F:医学・医療と社会に含まれる「社会・環境と健康」、「疫学と予防医学」、「生活習慣病」、「保健・医療・福祉・介護制度」といった医学・医療に関わる環境と健康や保健・医療・福祉・介護などの社会的側面についての学習項目を含む。テキスト及び資料を中心に講義を進めるが、範囲が極めて広いため、すべてをカバーすることは不可能である。このため、学生の自学自習を前提とする。

衛生学・公衆衛生学の各論としては、さまざまな分野における健康現象を取り上げる。いくつかの分野においてその領域で第一線で活躍されている方に学外から来て頂き、講義をして頂く予定である。

衛生学・公衆衛生学の実習においては、地域における課題を理解し、自ら問題を設定してその解決策までを考える課題解決能力の育成を目指した参加型実習を取り入れる。具体的には、文献学習、学外の施設における見学、体験、面接聞き取りや質問紙による調査などを行い、学会形式による発表会、研究論文形式の実習報告書の作成などである。

法医学の授業では、医学的因果関係論が基礎となる医事紛争や人身障害における損害賠償論を学習項目に含む。各論では、人の死に対して法医学的問題に適切に対処できるように死因論・中毒論・個人識別法、及び医師の責務となる医事関係法規などを基礎知識として求める。講義出席日数は本学試験内規に準じて厳重にチェックされる。実習は必修である。

学習目標

一般目標

基礎医学及び臨床医学で臓器別、機能別に学習してきた健康問題を、一人の人間が様々な生活環境とライフスタイルの中で経験する健康問題として総合的に見る視点を習得する。その視点をもとに、臨床現場でのプライマリ・ヘルス・ケア実践に必要な予防医学の方法論を学習する。

行動目標

予防医学入門:

- 1) 健康の捉え方や疾病の概念について自分の言葉で説明できる。予防医学の視点を習得し、予防医学の重要性を説明できる。
- 2) 疾病の自然史について例を挙げて説明できる。疾病の要因分析の方法について例を挙げて説明できる。一次予防、二次予防、三次予防についてその意味を具体的に説明できる。
- 3) 医療とそれを取り巻く環境や病氣と死の捉え方が文化によって異なることを理解し、医師患者間の信頼関係を築くための留意点について例を挙げて説明できる。

疫学:

- 4) 予防医学における疫学の重要性を理解し、その概念について説明できる。仮説を立てることができる。疫学の具体的な方法について理解し、記述疫学、分析疫学、介入研究について説明できる。
- 5) 疫学研究の組み立て方を習得し、交絡要因、因果関係とは何かを説明できる。
- 6) 臨床疫学、スクリーニングの概念と具体的な方法を説明できる。
- 7) 臨床研究、メタアナリシス、Evidence based medicineについて概説できる。

医療統計学:

- 8) 保健統計の見方について理解し、必要な情報を読み取ることができる。
- 9) 医療統計学の基礎を理解し、その活用方法を説明できる。
- 10) 提示された医療現場及び臨床医学研究事例において統計を実際に活用することができる。

環境医学:

- 11) 環境の概念について説明できる。日本や世界における環境問題について理解し、身近な健康問題と結びつけて説明できる。
- 12) 日常生活における環境起因性疾病について例を挙げて説明できる。感染性廃棄物の処理方法と安全対策上医師が留意すべき点を説明できる。
- 13) 空気、水、物理的環境要因の測定法および環境基準、衛生基準を習得し、それらの要因が生体に及ぼす影響について概説できる。環境中の危険有害物質に関するリスクコミュニケーションの視点の重要性について説明し、問題解決の方向性を概説できる。
- 14) 社会環境の視点から、患者及び障がいを感じる立場を理解し、医療の果たす役割について考察し論述できる。

産業医学:

- 15) 産業医学の実際に触れ、産業医の職務と、作業管理、作業環境管理、健康管理について説明できる。
- 16) 現在の労働環境の特徴及び変化を健康問題と関連づけて理解し、労働災害や職業病の現状と問題点を概説できる。Work related diseasesの概念を説明できる。
- 17) 就労者のメンタルヘルスの現状の問題点と背景、その対策に向けたアプローチについて説明できる。
- 18) 産業現場で起こる中毒とその予防対策について概説できる。管理濃度、許容濃度の意味と限界について説明できる。
- 19) じん肺と職業がんに関して臨床場面における留意点を説明できる。リスクとは何か？リスクのアセスメントとマネージメントの重要性を説明できる。医療従事者の健康リスクについて概説できる。

予防医学の実践論:

- 20) コミュニティ・ヘルス・ケアの視点から、感染症の予防対策について説明できる。新興・再興感染症流行の背景について説明できる。
- 21) “食”と健康や疾患との関係を説明できる。“食”と関係が深い生活習慣病や食中毒について予防対策と関連して概説できる。
- 22) 運動がヒトの健康に及ぼす影響について説明できる。運動、食事を含めた健康モデルと健康教育の方法について現場で活用する場合の留意点を医師の果たす役割と共に説明できる。

テキスト	特に定めない		
参考書	NEW予防医学・公衆衛生学 国民衛生の動向 産業保健マニュアル 働く人々の病気 病と死の文化 暮らしの中の文化人類学 死の中の笑み 医療と言葉 A Textbook of Family Medicine 高度成熟社会の人間工学 保健統計・疫学 基礎から学ぶ楽しい疫学 新しい疫学 Epidemiology Beyond the Basics Clinical Epidemiology Epidemiology 産業医の職務Q&A 講座人間と医療を考える全5巻 社会のなかの感染症 Disease	岸玲子・他編 厚生統計協会 和田攻編 B. ラマツツイーニ著 波平恵美子著 波平恵美子著 徳永進著 谷川俊太郎・浜田晋・徳永晋著 Ian R. McWhinney, 本学図書館所蔵(3冊)あり 伊藤謙治著 福富和夫・橋本修二 中村好一著 重松逸造・柳川洋監修 Moyses Szklo et al. David L. Sackett et al. K.J.Rothman 厚生労働省労働衛生課監修 中川米造監修 福見秀雄著 Mary Dobson著 小林力訳	南江堂 南山堂 北海道大学図書刊行会 朝日選書 出窓社 ゆみる出版 ゆみる出版 Oxford University Press, 1997 日科技連 南山堂 医学書院 日本公衆衛生協会 Jones and Bartlett Little, Brown and Company Oxford University 産業医学振興財団 弘文堂 日本評論社 医学書院
評価方法	筆記試験と小テスト、受講態度等を合わせて総合的に評価を行う。		
その他(メッセージ等)	試験は暗記を前提にした記憶力を問うのではなく、どれだけ理解したのかを問うことにします。講義時間にただノートに書き写し、内容を暗記して試験に臨むのではなく、講義の時間に内容を理解し、わからないことはその場で質問し、試験ではより深い考察ができるように心がけて下さい。		

授業計画／担当教員等

1. 4月 3日(火)3時限 予防医学入門1
予防医学の視点:健康・疾病・障がいの概念と社会環境
《福島哲仁》
2. 4月 3日(火)4時限 予防医学入門2
疾病の自然史、ライフスタイル、ライフステージ、疾病の要因分析、一次予防、二次予防、三次予防
《福島哲仁》
3. 4月10日(火)3時限 医療統計学1
疫学を学ぶ基礎:人口統計、保健統計、国際疾病分類、有病率と罹患率、年齢調整死亡率、生命表
《福島哲仁》
4. 4月10日(火)4時限 疫学1
科学的疫学研究のデザイン、疫学とは何か、仮説とは何か、記述疫学演習
《福島哲仁》
5. 4月17日(火)3時限 疫学2
疫学の方法と活用(記述疫学、分析疫学、介入研究)、交絡要因、因果関係
《早川岳人》

6. 4月17日(火)4時限 疫学3
臨床疫学:スクリーニング、感度・特異度、ROC曲線、事前確率・事後確率、演習
《早川岳人》
7. 4月24日(火)3時限 予防医学入門3
医療と環境・医療人類学:医療と文化、生と死のとりえ方、医師患者関係
《波平恵美子(お茶の水女子大学)》
8. 4月24日(火)4時限 疫学4
臨床研究、Randomized Controlled Trial、Evidence Based Medicine、メタアナリシス
《神田秀幸(横浜市立大学医学部)》
9. 5月 1日(火)3時限 環境医学1
環境のとりえ方、地球・地域の環境問題、生態系、生物濃縮
《福島哲仁》
10. 5月 1日(火)4時限 環境医学2
日常生活の環境問題、有害物質、環境発癌物質、内分泌かく乱化学物質、環境起因性疾病、
シックハウス症候群、廃棄物
《福島哲仁》
11. 5月 8日(火)3時限 環境医学3
環境と健康:空気、水、物理的環境(低温・高温、放射線、気圧、騒音、振動)
《熊谷智広》
12. 5月 8日(火)4時限 環境医学4
社会環境と健康、障がい
《永幡幸司(福島大学)》
13. 5月15日(火)3時限 医療統計学2
医療の中の統計学~その活用法
《尾崎米厚(鳥取大学)》
14. 5月15日(火)4時限 医療統計学3
医療統計演習
《全教員》
15. 5月22日(火)3時限 産業医学1
産業医学の動向:労働災害、職業病、Work related diseases、作業態様に起因する疾病、人間工学
《熊谷智広》
16. 5月22日(火)4時限 産業医学2
産業医学の実践:産業医、作業管理、作業環境管理、健康管理
《山内 徹(福島キャノン株式会社)》
17. 5月29日(火)3時限 産業医学3
メンタルヘルス、ストレス、ストレスコーピング、疲労、過労死、過労自殺
《熊谷智広》
18. 5月29日(火)4時限 産業医学4
産業中毒:有機溶剤、金属、管理濃度、許容濃度
《熊谷智広》
19. 6月 5日(火)3時限 産業医学5
じん肺、職業がん、リスクアセスメント、リスクマネ-ジメント、実質安全量
《福島哲仁》
20. 6月 5日(火)4時限 予防医学の実践論1.感染症対策
新興・再興感染症、結核、感染症関連法、検疫、予防接種
《早川岳人》
21. 6月12日(火)3時限 予防医学の実践論2.栄養とヘルスケア
栄養と疾病、食品衛生、食中毒
《熊谷智広》
22. 6月12日(火)4時限 予防医学の実践論3.ライフスタイルとヘルスケア
行動科学、健康行動モデル、健康教育、運動
《早川岳人》

担当教員

福島哲仁	教授	福島県立医科大学医学部衛生学・予防医学講座
早川岳人	准教授	福島県立医科大学医学部衛生学・予防医学講座
熊谷智広	学内講師	福島県立医科大学医学部衛生学・予防医学講座
各務竹康	助手	福島県立医科大学医学部衛生学・予防医学講座
辻 雅善	助手	福島県立医科大学医学部衛生学・予防医学講座

尾崎米厚	准教授	鳥取大学医学部	非常勤講師
永幡幸司	准教授	福島大学	非常勤講師
波平恵美子	名誉教授	お茶の水女子大学	非常勤講師
山内 徹	名誉教授・産業医	三重大学大学院医学系研究科・福島キャノン株式会社	非常勤講師
神田秀幸	講師	横浜市立大学医学部社会予防医学教室	

科目・コース(ユニット)名	社会医学 (公衆衛生学)【医学4】						
(英語名称)	Social Medicine (Public Health)						
担当責任者	安村 誠司						
開講年次	4年	開講学期	1期	必修/選択	必修	授業形態	講義

概要/方針等
<p>公衆衛生学の授業では、医学教育モデル・コア・カリキュラムの教育内容ガイドラインに示された項目B:医学・医療と社会に含まれる「社会・環境と健康」、「地域医療」、「生活習慣病と疾病」、「保健、医療、福祉と介護の制度」といった医学・医療に関わる環境と健康や保健・医療・福祉・介護などの社会的側面についての学習項目を含む。テキスト及び資料を中心に講義を進めるが、範囲が極めて広いため、すべてをカバーすることは不可能である。このため、学生の自学自習を前提とする。</p> <p>各論としては、さまざまな分野における健康現象を取り上げる。いくつかの分野においてその領域で第一線で活躍されている方に学外から来て頂き、講義をして頂く予定である。</p>

学習目標
<p>【一般目標】</p> <p>地域における疾病予防と健康増進を目指した地域保健・医療活動ができるようになるために、社会における健康課題とその成因・背景を、疫学を基礎として理解する。また、ライフ・サイクルに添った健康課題に対して、根拠に基づく予防対策(Evidence-based Medicine/Public Health)を身につける。臨床医学と公衆衛生学が密接に関連していることを理解するのが目標である。</p> <p>【行動目標】</p> <p>公衆衛生学の基礎</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 総論: 公衆衛生学がどのような学問か説明できる。 2) 地域で公衆衛生医師として働く: 国内外における地域保健での公衆衛生医師、研究者の役割を説明できる。 3) 地域医療を担う医師として働く: 地域医療と医師の役割を説明できる。 4) ヘルスプロモーション: ヘルスプロモーションの理念、方法、歴史と今後の展望を概説できる。 <p>生涯を通じた健康づくり</p> <ol style="list-style-type: none"> 5) 出生前・周産期: リプロダクティブヘルスの概念と日本における主要課題を説明できる。 6) 周産期・乳幼児期: 母子保健行政の仕組みと母子保健サービスの概要を説明できる。 7) 学童期・思春期・青年期: 保健教育および保健管理について概説できる。 8) 成人期: 主な生活習慣病の動向、その発生要因、及び予防方策を概説できる。 喫煙と疾病の関係と禁煙指導を説明できる。 地域精神保健および地域保健法を概説できる。 9) 高齢期: 高齢社会及び高齢者の実像を説明できる。 高齢者への保健・医療・福祉施策を概説できる。 <p>公衆衛生学特論</p> <ol style="list-style-type: none"> 10) プリオン病: 特定疾患やプリオン病の実態を説明できる。 根拠に基づく健康政策の実践例を説明できる。 11) 医療経済: 医療の経済的特殊性について具体的に説明できる。 日本の医療費上昇の要因とその対策について説明できる。

テキスト	新簡明衛生公衆衛生改訂第6版 丸井英二編 南山堂 4,725円(税込)
参考書	NEW予防医学・公衆衛生学改訂第2版 岸玲子・古野純典・大前和幸・小泉昭夫編 南江堂 6,300円(税込) 国民衛生の動向 厚生統計協会(毎年8月下旬に発行) 2,400円(税込) 公衆衛生マニュアル 柳川洋・中村好一編 南山堂 5,775円(税込)
評価方法	評価は筆記試験、受講態度を合わせて総合的に行い、60点以上を合格とする。
その他(メッセージ等)	講義にはテキスト・配布資料は原則的に毎回持ってくること。 講義でコア・カリキュラムすべてをカバーすることは困難であり、不足分は自学・自習が必須である。

授業計画/担当教員等
<p>【授業計画】</p> <p>1回・4月 6日(金)1時限/公衆衛生学の基礎:総論(公衆衛生学とはどんな学問か?) キーワード(疫学と予防医学、ブロードストリートコレラ事件、Evidence-based Public Health) 安村誠司</p> <p>2回・4月 6日(金)2時限/公衆衛生学の基礎:地域で公衆衛生医として働く(3)(国際保健の立場から) キーワード(協力体系、プロジェクト)</p>

- 後藤あや, ンゴマ・マインドウ・アライン
 3回・4月13日(金)1時限／生涯を通じた健康づくり: 出生前・周産期
 キーワード(リプロダクティブヘルス、家族計画、少子化、性感染症)
- 後藤あや
 4回・4月13日(金)2時限／公衆衛生学の基礎: 地域医療を担う医師として働く(1)(診療所医師として)
 キーワード(地域医療、診療所、連携)
 小川裕(やまがた保健生活協同組合しろにし診療所)
- 5回・4月20日(金)1時限／生涯を通じた健康づくり: 成人期(1)(日本人の健康状態・難病)
 キーワード(生活習慣と疾病、健康日本21)
 安村誠司
- 6回・4月20日(金)2時限／公衆衛生学の基礎: ヘルスプロモーション
 キーワード(ヘルスプロモーション、健康政策、健康寿命、エンパワーメント)
 星旦二(首都大学東京)
- 7回・4月27日(金)1時限／公衆衛生学の基礎: 地域医療を担う医師として働く(2)(病院管理者として)
 キーワード(地域の病院の実態、地方行政と病院との連携、医療を軸としたまちづくり)
 星北斗(星総合病院)
- 8回・4月27日(金)2時限／生涯を通じた健康づくり: 周産期・乳幼児期
 キーワード(母子保健サービス、母子健康手帳、母子保健指標、育児支援)
 加藤則子(国立保健医療科学院)
- 9回・5月11日(金)1時限／生涯を通じた健康づくり: 成人期(2)(生活習慣病のリスクと予防: 総論)
 キーワード(ライフスタイル、メタボリックシンドローム)
 齋藤智子, 安村誠司
- 10回・5月11日(金)2時限／生涯を通じた健康づくり: 学童期・思春期・青年期
 キーワード(大学生、メンタルヘルス、学校保健法)
 安村誠司
- 11回・5月18日(金)1時限／生涯を通じた健康づくり: 成人期(3)(生活習慣病のリスクと予防: 各論)
 キーワード(脳卒中、虚血性心疾患、疫学研究、ストレス、笑い)
 大平哲也(大阪大学大学院)
- 12回・5月18日(金)2時限／公衆衛生学特論: 医療経済
 キーワード(医療費、医療保険、モラルハザード、診療報酬制度)
 小林廉毅(東京大学大学院)
- 13回・5月25日(金)1時限／生涯を通じた健康づくり: 高齢期(1)(高齢社会: 総論)
 キーワード(老化、高齢者における健康、健康寿命)
 山崎幸子
- 14回・5月25日(金)2時限／公衆衛生学の基礎: 地域で公衆衛生医として働く(1)(保健所の立場から)
 キーワード(保健所、地域保健医療福祉)
 金成由美子(福島県南会津保健所)
- 15回・6月 1日(金)1時限／生涯を通じた健康づくり: 高齢期(2)(老年症候群 老年病)
 キーワード(老年症候群、老年病総論・各論)
 安村誠司
- 16回・6月 1日(金)2時限／生涯を通じた健康づくり: 成人期(4)(メンタルヘルス)
 キーワード(災害精神保健、地域精神保健、精神保健行政)
 鈴木友理子(国立精神・神経医療研究センター)
- 17回・6月 8日(金)1時限／生涯を通じた健康づくり: 高齢期(3)(高齢者保健対策)
 キーワード(高齢者保健対策、QOL、生命倫理)
 安村誠司
- 18回・6月 8日(金)2時限／公衆衛生学特論: プリオン病
 キーワード(プリオン病、疫学、感染症、医原病)
 中村好一(自治医科大学)
- 19回・6月15日(金)1時限／生涯を通じた健康づくり: 高齢期(4)(介護予防)
 キーワード(介護保険と介護予防、閉じこもり、サクセスフル・エイジング)
 山崎 幸子
- 20回・6月15日(金)2時限／公衆衛生学の基礎: 地域で公衆衛生医として働く(2)(研究者の立場から)
 キーワード(疫学と政策科学、政策評価、閉じこもり予防事例、地域保健、健康政策)
 安村誠司

【担当教員】

安村 誠司: 福島県立医科大学医学部公衆衛生学講座／教授
 後藤 あや: 福島県立医科大学医学部公衆衛生学講座／准教授
 山崎 幸子: 福島県立医科大学医学部公衆衛生学講座／助教

ンゴマ・マインドゥ・アライン: 福島県立医科大学医学部公衆衛生学講座／助教
鈴木 智子: 福島県立医科大学医学部公衆衛生学講座／助教

非常勤講師

大平 哲也: 大阪大学大学院医学系研究科公衆衛生学講座／准教授

小川 裕: やまがた保健生活協同組合しろにし診療所／所長

加藤 則子: 国立保健医療科学院地域保健システム研究分野／統括研究官

小林 廉毅: 東京大学大学院医学系研究科公衆衛生学／教授

鈴木 友理子: 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所成人精神保健部／研究等支援研究室長

中村 好一: 自治医科大学地域医療学センター公衆衛生学部門／教授

星 旦二: 首都大学東京・大学院都市環境科学研究科／教授

星 北斗: 星総合病院／理事長

金成 由美子: 福島県南会津保健所／所長・福島県南会津保健福祉事務所／副所長

科目・コース(ユニット)名	社会医学 (衛生学・公衆衛生学実習)【医学4】						
(英語名称)	Social Medicine (Family Health Practice Tutorial / Public Health Practicum)						
担当責任者	福島哲仁・安村誠司						
開講年次	4年	開講学期	2期	必修/選択	必修	授業形態	実習

概要/方針等

【衛生学・予防医学講座】
 衛生学・予防医学講座担当の実習においては、一般家庭を二人一組で訪問し、クライアントの健康問題と、その背景にある生活問題、社会問題を把握し、解決法を検討する問題解決型の実習を行う。問題解決の検討過程において、テューリアル形式のディスカッション、情報収集を実施する。実習の最後には発表会、報告書の作成を行う。

【公衆衛生学講座】
 公衆衛生学の実習においては、地域における現実の課題を理解し、自ら問題を設定してその解決策までを考える実践的な課題解決能力の育成を目指した参加型実習を取り入れる。具体的には、文献学習、学外の施設における見学、面接聞き取りや質問紙による調査などを行い、学会形式による発表会、研究論文形式の実習報告書の作成などである。

学習目標

【衛生学・予防医学講座】
 教育目標
 実際の家庭に赴き、健康問題がクライアント及びその家族員の生活にどのような影響を及ぼしているのか、また逆に、生活がどのように健康問題を生じさせる背景要因となっているのかを、疾病の有無、病因、受診状況から捉えるだけでなく、家族の構造面、発達面、機能面、情緒面などの観点から総合的に把握する。クライアントの抱える健康問題を生活者の視点と将来医療に携わる医学生の視点の両面から把握し、解決策・支援の方法を学習する。

- 行動目標
- 1) クライアントとの協力関係を、将来医療に携わる者の立場から構築する
 - 2) クライアントの生活環境や社会的な背景に、積極的で具体的な関心を示し、主体的に学習することができる
 - 3) クライアントから得た情報(問題点、背景、優先度)を理解できる
 - 4) クライアントの治療や援助に必要な家庭的/社会的な背景を具体的に引き出せる
 - 5) クライアントから得た問題点の解決に向けて、解決策・支援の方法を提示できる
 - 6) クライアントに対し社会人としてのマナーを持ち、正しい身なり・言葉遣いで接することができる
 - 7) クライアントのプライバシーに配慮できる
 - 8) 医療人となるべき者として自分の役割と義務、権利を理解できる

【公衆衛生学講座】
 一般目標
 講義で学習した公衆衛生学の系統的知識、技術を地域という生活の場で活用できるようになるために、保健、医療、福祉の第一線で働くスタッフや住民と実際に接し、当事者の生の声と生活する様から学び、実習活動を通じて社会医学の調査方法を身につける。

- 行動目標
- 1) 地域の公衆衛生活動の理論と方法について具体的に説明できる。
 - 2) 地域の公衆衛生学上の問題点を把握し列挙できる。
 - 3) 地域の公衆衛生学上の問題の解決策を提示できる。
 - 4) 学習(実習)計画を自主的に立て、実践することができる。
 - 5) 学習成果を論理的・効果的に発表し、報告書にまとめることができる。

テキスト

参考書

評価方法

【衛生学・予防医学講座】
 実習態度、レポート、実習発表会、実習報告書を含めた個人評価などで総合的に評価する。

【公衆衛生学講座】
 学習の過程、実習発表会、報告書、実習態度を含めた個人評価などで総合的に評価する。

その他(メッセージ等)

授業計画／担当教員等

【衛生学・予防医学講座】

- 1回・ 7月 6日(金)1時限／実習(オリエンテーション)／教員全員
 2回・ 7月 6日(金)2時限／実習(コミュニケーショントレーニング)／教員全員
 3回・ 7月 6日(金)3時限／実習(スキルトレーニング)／教員全員
 4回・ 7月 6日(金)4時限／実習(スキルトレーニング)／教員全員
 5回・ 7月13日(金)1時限／実習(家庭訪問1回目)／教員全員
 6回・ 7月13日(金)2時限／実習(家庭訪問1回目)／教員全員
 7回・ 7月13日(金)3時限／実習(グループミーティング)／教員全員
 8回・ 7月13日(金)4時限／実習(グループミーティング)／教員全員
 9回・ 7月20日(金)1時限／実習(家庭訪問2回目)／教員全員
 10回・ 7月20日(金)2時限／実習(家庭訪問2回目)／教員全員
 11回・ 7月20日(金)3時限／実習(グループミーティング)／教員全員
 12回・ 7月20日(金)4時限／実習(グループミーティング)／教員全員
 13回・ 9月14日(金)1時限／実習(チュートリアル)／教員全員
 14回・ 9月14日(金)2時限／実習(チュートリアル)／教員全員
 15回・ 9月14日(金)3時限／実習(チュートリアル・情報収集)／教員全員
 16回・ 9月14日(金)4時限／実習(チュートリアル・情報収集)／教員全員
 17回・ 9月21日(金)1時限／実習(小グループ内ケースカンファレンス)／教員全員
 18回・ 9月21日(金)2時限／実習(小グループ内ケースカンファレンス)／教員全員
 19回・ 9月21日(金)3時限／実習(小グループ内ケースカンファレンス)／教員全員
 20回・ 9月21日(金)4時限／実習(小グループ内ケースカンファレンス)／教員全員
 21回・ 9月28日(金)1時限／実習(家庭訪問3回目)／教員全員
 22回・ 9月28日(金)2時限／実習(家庭訪問3回目)／教員全員
 23回・ 9月28日(金)3時限／実習(グループミーティング)／教員全員
 24回・ 9月28日(金)4時限／実習(グループミーティング)／教員全員
 25回・10月 5日(金)1時限／実習(発表会準備・報告書作成)／教員全員
 26回・10月 5日(金)2時限／実習(発表会準備・報告書作成)／教員全員
 27回・10月 5日(金)3時限／実習(発表会準備・報告書作成)／教員全員
 28回・10月 5日(金)4時限／実習(発表会準備・報告書作成)／教員全員
 29回・10月12日(金)1時限／実習発表会／教員全員
 30回・10月12日(金)2時限／実習発表会／教員全員
 31回・10月12日(金)3時限／実習発表会／教員全員
 32回・10月12日(金)4時限／報告書作成／教員全員

<担当教員>

福島 哲仁: 福島県立医科大学医学部衛生学・予防医学講座／教授
 早川 岳人: 福島県立医科大学医学部衛生学・予防医学講座／准教授
 熊谷 智広: 福島県立医科大学医学部衛生学・予防医学講座／講師
 各務 竹康: 福島県立医科大学医学部衛生学・予防医学講座／助手
 辻 雅善: 福島県立医科大学医学部衛生学・予防医学講座／助手
 日高 友郎: 福島県立医科大学医学部衛生学・予防医学講座／助手

【公衆衛生学講座】

<授業計画>

- 1回・ 7月 6日(金)1時限／実習(オリエンテーション)／教員全員
 2回・ 7月 6日(金)2時限／実習(グループミーティング)／教員全員
 3回・ 7月 6日(金)3時限／実習(グループミーティング)／教員全員
 4回・ 7月 6日(金)4時限／実習(グループミーティング)／教員全員
 5回・ 7月13日(金)1時限／実習(実地・グループミーティング)／教員全員
 6回・ 7月13日(金)2時限／実習(実地・グループミーティング)／教員全員
 7回・ 7月13日(金)3時限／実習(実地・グループミーティング)／教員全員
 8回・ 7月13日(金)4時限／実習(実地・グループミーティング)／教員全員
 9回・ 7月20日(金)1時限／実習(実地・グループミーティング)／教員全員
 10回・ 7月20日(金)2時限／実習(実地・グループミーティング)／教員全員
 11回・ 7月20日(金)3時限／実習(実地・グループミーティング)／教員全員
 12回・ 7月20日(金)4時限／実習(実地・グループミーティング)／教員全員
 13回・ 9月14日(金)1時限／実習(実地・グループミーティング)／教員全員
 14回・ 9月14日(金)2時限／実習(実地・グループミーティング)／教員全員

- 15回・9月14日(金)3時限／実習(実地・グループミーティング)／教員全員
- 16回・9月14日(金)4時限／実習(実地・グループミーティング)／教員全員
- 17回・9月21日(金)1時限／実習(実地・グループミーティング)／教員全員
- 18回・9月21日(金)2時限／実習(実地・グループミーティング)／教員全員
- 19回・9月21日(金)3時限／実習(実地・グループミーティング)／教員全員
- 20回・9月21日(金)4時限／実習(実地・グループミーティング)／教員全員
- 21回・9月28日(金)1時限／実習(実地・グループミーティング)／教員全員
- 22回・9月28日(金)2時限／実習(実地・グループミーティング)／教員全員
- 23回・9月28日(金)3時限／実習(実地・グループミーティング)／教員全員
- 24回・9月28日(金)4時限／実習(実地・グループミーティング)／教員全員
- 25回・10月 5日(金)1時限／実習(発表準備)／教員全員
- 26回・10月 5日(金)2時限／実習(発表準備)／教員全員
- 27回・10月 5日(金)3時限／実習(発表準備)／教員全員
- 28回・10月 5日(金)4時限／実習(発表準備)／教員全員
- 29回・10月12日(金)1時限／実習発表会／教員全員
- 30回・10月12日(金)2時限／実習発表会／教員全員
- 31回・10月12日(金)3時限／講評・報告書作成
- 32回・10月12日(金)4時限／報告書作成

<担当教員>

安村 誠司:福島県立医科大学医学部公衆衛生学講座／教授
後藤 あや:福島県立医科大学医学部公衆衛生学講座／准教授
山崎 幸子:福島県立医科大学医学部公衆衛生学講座／助教
ンゴマ・マインドウ・アライン:福島県立医科大学医学部公衆衛生学講座／助教
鈴木 智子:福島県立医科大学医学部公衆衛生学講座／助教

科目・コース(ユニット)名	社会医学 (法医学)【医学4】						
(英語名称)	Social Medicine (Legal Medicine)						
担当責任者	平岩幸一						
開講年次	4年	開講学期	2期	必修/選択	必修	授業形態	講義・実習

概要/方針等
 法医学の授業では、医学的因果関係論が基礎となる医事紛争や人身障害における損害賠償論を学習項目に含む。各論では、人の死に対して法医学的問題に適切に対処できるように死因論・中毒論・個人識別法、及び医師の責務となる医事関係法規などを基礎知識として求める。講義出席日数は本学試験内規に準じて厳重にチェックされる。実習は必修である。

- 学習目標**
- 一般目標 1 医師に対する法的規制を理解し、適正な対応を身につける。
 2 法的諸問題を医学的知識に基づいて的確に判断・処理できる。
- 行動目標 1 医師としての法的義務を列挙できる。
 2 死因の概念と因果関係の考え方を説明でき、死亡診断書・死体検案書を正しく記載できる。
 3 死体現象を列挙し、その意義を説明できる。
 4 外力と損傷の関係を列挙でき、損傷と死因の因果関係を説明できる。
 5 窒息所見を列挙でき、その発生機序を説明できる。
 6 生・死産児の鑑別法及び嬰兒の成熟度判定法を説明できる。
 7 内因性急死を来す主な疾患の臨床的・病理的特徴を理解し、外因死と内因死を区別できる。
 8 乳幼児突然死症候群の概念を理解し、問題点を列挙できる。
 9 血液型(表現型多型)及びDNA 多型に関する知識を修得する。
 10 血痕・体液斑からの血液型・DNA 型判定方法、及び、親子鑑定の手続きを理解する。
 11 法医学で重要な薬物の毒性機序を説明でき、臨床・死体所見から中毒起因物質の推定ができる。
 12 依存性薬物の基礎的知識及び法律的問題点を理解する。

テキスト	特に指定しない。
参考書	高取健彦「エッセンシャル法医学」医歯薬出版、赤石英「臨床医のための法医学」南江堂、石津日出雄「標準法医学・医事法」医学書院、四方一郎・永野耐三「現代の法医学」金原出版、若杉長英「法医学」金芳堂、澤口彰子「臨床のための法医学」朝倉書店、永田武明・原三郎「学生のための法医学」南山堂
評価方法	1 出席を重視する。 2 実習は必修。レポート代用は認めない。 授業の評価は平常点、レポート、試験その他の方法により総合的に判定される。
その他(メッセージ等)	1 いわゆる口述筆記は奨めない。 2 努めてスライドを活用して、理解に資したい。

授業計画/担当教員等							
回数	月	日	曜日	時限	項目	内容(キーワード等)	担当者
1	7	2	月	1	総論	法医学の領域	平岩
2	7	9	月	1	死因論	死因の競合、共同死因、刑事法医学	平岩
3	7	19	木	3	因果関係論	寄与度、割合的認定、民事法医学	平岩
4	7	23	月	1	医事関係法規	医師と法律、医事法、届出義務	平岩
5	7	26	木	3	中毒学総論	中毒の概念、基礎知識	栗崎
6	7	26	木	4	有害物質	有毒ガス・有害物質の毒性機序	栗崎
7	9	18	火	3	中毒学実習	未知物質の分析	全員
8	9	18	火	4	中毒学実習	未知物質の分析	全員
9	9	24	月	1	依存性薬物	アルコール、有機溶媒、向精神薬	栗崎
10	9	24	月	2	薬毒物分析法	分析試料の採取、保存、分析法	栗崎
11	9	25	火	3	血液型概論・各論	遺伝的多型と遺伝様式、血液型血清型、赤血球酵素型、DNA 型	阿部
12	9	25	火	4	親子鑑定・個人識別	血液型、DNA 型による親子鑑定と個人識別	阿部
13	10	1	月	1	死体現象	生と死、角膜混濁、死斑、硬直、体温降下	平岩
14	10	1	月	2	死体現象	晚期死体現象、ミイラ、死蠟、死後経過時間	平岩
15	10	2	火	3	損傷論	創傷の定義と性状、成傷器の種類	平岩
16	10	9	火	2	損傷論	頭部損傷、創傷と死因	平岩
17	10	9	火	3	窒息論	窒息の定義と発生機序、窒息所見	平岩
18	10	15	月	1	窒息論	絞死、絞死、扼死、溺死、圧死	平岩

UNIVERSAL PASSPORT EX

19	10	15	月	2	環境異常	焼死、火傷死、凍死	平岩
20	10	16	火	2	環境異常	熱中症、飢餓死、潜函病	平岩
21	10	23	火	2	新生児	生産児・死産児の鑑別、成熟児の判定	平岩
22	10	29	月	1	内因性急死	内因性急死の主な疾患、外因死との鑑別	平岩
23	10	29	月	2	労働災害・心因性反応	過労死、過労自殺、後遺障害	平岩
24	10	30	火	2	異状死体検案	死体検案方法、死体検案書の作成	平岩

担当教員一覧

教員氏名	職	所属	備 考
平 岩 幸 一	教授	法医学	
栗 崎 恵美子	講師	法医学	
阿 部 すみ子	非常勤講師	高崎健康福祉大学薬学部	

科目・コース(ユニット)名	消化器2【医学4】						
(英語名称)	Gastroenterology 2						
担当責任者	木暮 道彦 小山 善久 片倉 響子						
開講年次	4年	開講学期	1期	必修/選択	必修	授業形態	講義・実習

概要/方針等	
肝・胆・膵を中心とした消化器病学について、内科、外科、病理の立場から系統講義を行う。	
学習目標	
一般目標 主な肝・胆・膵疾患の病因、病態生理、症候、診断と治療、病理診断を学ぶ。	
行動目標	
1 ウイルス性肝炎(急性および慢性)の病因、病態生理を理解し、予限、疾患の分類、診断、治療、病理所見について説明できる。 2 劇症肝炎の病因、病態生理を理解し、診断基準、治療法、病理所見について説明できる。 3 自己免疫性肝疾患(自己免疫性肝炎、原発性胆汁性肝硬変、原発性硬化性胆管炎)について、症候、診断基準、治療法、病理所見を説明できる。 4 死亡肝、アルコール性肝疾患およびヘモクロマトーシス、ウイルソン病の病態生理を理解し、症候、診断法、治療法、病理所見について説明できる。 5 肝硬変の病態生理を理解し、症候、診断法、治療法、病理所見について説明できる。 6 原発性、転移性肝がんの病因、分類、診断法、画像所見、治療法、病理所見について説明できる。 7 胆道系疾患(胆嚢炎、胆管炎、胆嚢癌、胆管癌)の病態生理を理解し、症候、診断法、画像所見、治療法、病理所見について説明できる。 8 急性および慢性膵炎の病態生理を理解し、症候、診断法、画像所見、治療法、病理所見について説明できる。 9 膵癌の病態生理を理解し、症候、診断法、画像所見、治療法、病理所見について説明できる。 10 肝・胆・膵疾患について病理実習を行い、それぞれの疾患の病理組織所見を理解する。	
テキスト	特に指定しない。
参考書	
評価方法	出席日数、筆記試験等により総合的に判定される。
その他(メッセージ等)	

授業計画/担当教員等							
回数	年月日	曜日	時限	項目	内容(キーワード等)	担当者	
1回	24 4 11	水	3	肝胆膵疾患の病理(1)	種々の原因による肝障害、肝硬変、肝癌の病理	田崎 和洋	
2回	24 4 11	水	4	肝胆膵疾患の病理(2)	胆嚢炎、胆嚢癌、膵炎、膵癌の病理	田崎 和洋	
3回	24 4 18	水	3	肝臓の構造と機能、肝炎(1)	正常肝の構造と機能、薬剤性肝障害、アルコール性肝障害	高橋 敦史	
4回	24 4 18	水	4	肝炎(2)	ウイルス性急性肝炎、急性肝不全	大平 弘正	
5回	24 4 25	水	3	肝炎(3)	ウイルス性慢性肝炎	大平 弘正	
6回	24 4 25	水	4	肝炎(4)	自己免疫性肝疾患	大平 弘正	
7回	24 5 2	水	3	代謝性肝疾患	代謝性肝疾患	大平 弘正	
8回	24 5 2	水	4	胆道膵臓の構造と機能	正常胆膵の構造と機能	高木 忠之	
9回	24 5 9	水	3	胆道・膵良性疾患(内科)	胆石症、胆嚢炎、胆管炎、膵炎など	高木 忠之	
10回	24 5 9	水	4	肝悪性疾患(内科)	肝細胞癌、胆管細胞癌、転移性肝癌	大平 弘正	
11回	24 5 16	水	3	肝悪性疾患(外科)	肝細胞癌、胆管細胞癌、転移性肝癌	土屋 貴男	
12回	24 5 16	水	4	肝移植・膵移植	肝移植、膵・膵島移植	後藤 満一	
13回	24 5 23	水	3	肝胆膵良性疾患(外科)	良性肝腫瘍、胆石症など	小山 善久	
14回	24 5 23	水	4	胆道・膵悪性疾患(内科)	胆嚢癌、胆管癌、膵癌、膵内分泌腫瘍など	高木 忠之	
15回	24 5 30	水	3	胆道悪性疾患(外科)	胆管癌、胆嚢癌、乳頭部癌	土屋 貴男	
16回	24 5 30	水	4	膵悪性疾患(外科)	膵癌、慢性膵炎の外科治療	後藤 満一	
17回	24 6 6	水	3	病理実習(肝胆膵)	肝疾患症例の検鏡	田崎 和洋	
18回	24 6 6	水	4	病理実習(肝胆膵)	肝疾患症例の検鏡	田崎 和洋	
19回	24 6 13	水	3	病理実習(肝胆膵)	胆道系、膵疾患症例の検鏡	田崎 和洋	
20回	24 6 13	水	4	病理実習(肝胆膵)	胆道系、膵疾患症例の検鏡	田崎 和洋	

(担当教員)		
教員氏名	職	所属
大平 弘正	教授	消化器・リウマチ膠原病内科学講座
後藤 満一	教授	臓器再生外科学講座
竹之下誠一	教授	器官制御外科学講座
田崎 和洋	准教授	病理病態診断学講座
小山 善久	准教授	器官制御外科学講座
木暮 道彦	講師	臓器再生外科学講座
土屋 貴男	講師	臓器再生外科学講座
高木 忠之	学内講師	消化器・リウマチ膠原病内科学講座
高橋 敦史	学内講師	消化器・リウマチ膠原病内科学講座

科目・コース(ユニット)名	腎・泌尿器2【医学4】						
(英語名称)							
担当責任者	中山 昌明、相川 健、林 義満						
開講年次	4年	開講学期	前期	必修/選択	必修	授業形態	講義

概要/方針等

〈外科的分野〉
 泌尿器科学は外科学の一分野として発展してきた。しかし膀胱鏡や腎盂鏡などの内視鏡検査や尿流動態検査など泌尿器科独自の検査法もあり、内科診断学的要素のある学問でもある。今年度では泌尿器科腫瘍に対する手術法を中心に、手術に至るまでの検査診断法を各臓器別に学習する。更に病理学実習を通して悪性度や転移の様式についても学ぶ。
 また泌尿器科の特徴として「排泄」は避けて通れない。高齢婦人の排泄の問題は生活の質を著しく損なうと同時に、最近問題となっている高齢者の引きこもりの原因となり、ひいては寝たきり老人の問題に発展する。人間の尊厳に深く関わる問題でもあり、婦人泌尿器科の授業を通じて人間存在の根本に関わる医療人としての意識を高めることを期待している。

〈内科的分野〉
 前年度に続いて腎疾患の病態と症候を、腎の構造と機能を把握しながら総合的に理解する。

学習目標

〈外科的分野〉
 一般目標
 腎ならびに副腎・尿管の後腹膜腔臓器および前立腺や精巣等の先天性後天性疾患の正確な病態を把握したうえで、それらの疾患の臨床症状や身体的所見からいくつかの疾患を予測でき、さらに系統立てた検査法で正確な診断ができる能力を身に付ける。そして治療法やその成績を理解して説明できることを目標とする。

- 行動目標
- 1 前立腺肥大による尿道閉塞のメカニズムおよび腎・膀胱に生じる排尿病態を説明できる。
 - 2 正常な排尿とは何かを説明できる。尿流動態検査の意義ならびに用いられる用語を理解し説明できる。また正常な神経学的排尿調節機構を理解した上で、神経障害による排尿機能異常の病態を説明できる。さらにその治療法についても記述できる。
 - 3 腎に発生する腫瘍性病変の分子生物学的所見や疫学的所見、臨床像、診断法、鑑別法、基本的病理組織像ならびに治療法、手術法、予後について説明できる。
 - 4 膀胱や尿道などの尿路上皮に発生する腫瘍性病変の分子生物学的所見や疫学的所見、臨床像、診断法、鑑別疾患、基本的病理組織像ならびに治療法、手術法と下部尿路変更再建術の種類とそれぞれの長所と欠点を列挙できる。
 - 5 前立腺や精巣に発生する腫瘍性病変の分子生物学的所見と疫学的所見、臨床像、診断法、腫瘍マーカーの意義、鑑別診断、基本的病理組織像、ならびに治療法と手術やリンパ節郭清術の適応、予後について説明できる。
 - 6 女性骨盤底の解剖、尿失禁のメカニズム、尿失禁の分類とその罹患頻度、診断法と治療法を説明できる。

〈内科的分野〉
 一般目標
 腎系球体・尿細管の構造と機能を理解し、それらの異常による病態と症候、基本的な検査・診断方法と治療法を学ぶ。

- 行動目標
- ① ネフローゼ症候群の症状、原因疾患と診断・治療法を説明できる。
 - ② 二次性糸球体疾患の症状、原因疾患と診断・治療法を説明できる。
 - ③ 尿細管障害の症状、原因疾患と診断・治療法を説明できる。
 - ④ カルシウム・リン代謝調節とその異常による病態を理解し説明できる。
 - ⑤ 高血圧の病態における腎の役割を理解し説明できる。
 - ⑥ 代表的な遺伝性腎疾患を列挙し、その病態を説明できる。
 - ⑦ 保存期慢性腎不全の病態と治療法を理解し説明できる。
 - ⑧ 血液透析と腹膜透析の原理を理解し説明できるとともに、維持透析患者の治療法を説明できる。

テキスト	特に指定しない。
参考書	
評価方法	第4学年末に行う筆記試験その他により、総合的に判定される。
その他(メッセージ等)	

授業計画／担当教員等

【講義日程】

- 4月9日 月 I 腎疾患の臨床症候と病理組織学的分類
(急性腎炎症候群、急速進行性糸球体腎炎症候群、慢性腎炎症候群、ネフローゼ症候群) 旭 浩一
- 4月9日 月 II <外科的分野>前立腺肥大症と排尿障害 相川 健
- 4月16日 月 I 原発性糸球体疾患① (微小変化群、巣状糸球体硬化症、膜性腎症、膜性増殖性糸球体腎炎) 旭 浩一
- 4月16日 月 II <外科的分野>神経因性膀胱と排尿障害 羽賀宣博
- 4月23日 月 I 原発性糸球体疾患②
(メサンキウム増殖性腎炎(IgA腎症)、溶連菌感染後糸球体腎炎腎炎、半月体形成糸球体腎炎) 旭 浩一
- 4月23日 月 II <外科的分野>腎癌 柳田知彦
- 5月7日 月 I 全身性疾患に伴う腎疾患① (ループス腎炎、ANCA関連腎炎、紫斑病性腎炎、アミロイドーシス、骨髄腫腎) 林 義満
- 5月7日 月 II <外科的分野>尿路上皮癌 柳田知彦
- 5月14日 月 I 全身性疾患に伴う腎疾患② (糖尿病性腎症、腎硬化症、痛風腎、コレステロール塞栓症) 林 義満
- 5月14日 月 II <外科的分野>前立腺癌 相川 健
- 5月21日 月 I 腎と高血圧 (腎血管性高血圧、悪性高血圧、腎実質性高血圧、妊娠高血圧腎症) 中山昌明
- 5月21日 月 II <外科的分野>精巣腫瘍・後腹膜腫瘍 石橋 啓
- 5月28日 月 I 尿細管間質障害の診断と治療 (薬剤性尿細管間質性腎炎、その他) 櫻井 薫
- 5月28日 月 II <外科的分野>婦人泌尿器科と尿失禁 高橋則雄
- 6月4日 月 I 尿細管間質障害と電解質・酸一塩基平衡異常
(ハーター症候群、キッテルマン症候群、リトル症候群、尿管アトーシス) 櫻井 薫
- 6月4日 月 II <外科的分野>腎泌尿器腫瘍(病理実習) 基礎病理学講座 杉野 隆
- 6月11日 月 I 遺伝性腎疾患 (多発性嚢胞腎、アルポート症候群、ファブリー病) 林 義満
- 6月11日 月 II <外科的分野>腎泌尿器腫瘍(病理実習) 基礎病理学講座 杉野 隆
- 6月18日 月 I 慢性腎臓病(CKD) (CKDの定義と重症度分類、CKDの疫学) 旭 浩一
- 6月18日 月 II 透析療法と合併症 (血液透析、腹膜透析、透析アミロイドーシス、被嚢性腹膜硬化症) 中山昌明

【担当教員一覧】

- 相川 健 講 師 福島県立医科大学医学部泌尿器科学講座
- 石橋 啓 講 師 福島県立医科大学医学部泌尿器科学講座
- 柳田知彦 学内講師 福島県立医科大学医学部泌尿器科学講座
- 羽賀宣博 助 教 福島県立医科大学医学部泌尿器科学講座
- 高橋則雄 助 教 福島県立医科大学医学部泌尿器科学講座
- 渡辺 毅 主任教授 福島県立医科大学医学部 腎臓高血圧・糖尿病内分泌代謝内科学講座
- 中山昌明 教 授 福島県立医科大学医学部 腎臓高血圧・糖尿病内分泌代謝内科学講座
- 旭 浩一 准教授 福島県立医科大学医学部 腎臓高血圧・糖尿病内分泌代謝内科学講座
(慢性腎臓病(CKD)病態治療学講座)
- 林 義満 講 師 福島県立医科大学医学部 腎臓高血圧・糖尿病内分泌代謝内科学講座
- 櫻井 薫 助 教 福島県立医科大学医学部 腎臓高血圧・糖尿病内分泌代謝内科学講座
- 橋本重厚 (兼)准教授 福島県立医科大学医学部 腎臓高血圧・糖尿病内分泌代謝内科学講座

科目・コース(ユニット)名	脳・神経2【医学4】						
(英語名称)							
担当責任者	杉浦嘉泰・佐久間潤						
開講年次	4年	開講学期	1期	必修／選択	必修	授業形態	講義

概要／方針等
 脳神経に関する臨床のすべての分野を網羅するコースで、その中心となるのは神経内科、脳神経外科および神経病理である。第4学年においては各論を内科的、外科的、さらには病理学的見地から行う。内科学における神経系疾患は、中枢神経系・末梢神経系・筋肉系疾患と非常に広範囲である。神経学を理解するためには、その基礎となるニューロサイエンス・特に神経解剖学・生理学的知識が必須である。この様な基礎的知識を基盤として、神経疾患を学ぶことが重要である。脳神経外科とは、神経学に基づき各種の補助検査法を駆使して、腫瘍、血管障害、外傷、奇形、炎症、痛み等を外科的に治療する臨床科である。偏りのない総合教育を目指し、年に数回は近年の目覚ましい医学の進歩に触れるために、各方面での第一人者を招いて特別講義の形式をとる方針である。

学習目標

一般目標
 神経疾患の部位診断を神経解剖学・生理学的理解を基に行う。神経内科学的疾患を神経症候・局在診断を基に学び、成因・病態・診断・治療法を理解することを目標とする。主な脳神経外科的疾患の病因、病態生理、症候の把握に基づく診断と治療法について学ぶ。主な脳腫瘍、脳血管障害、神経変性疾患の病理形態学的特徴を理解し、把握することを目標とする。

行動目標
 神経学的診断法を理解し、神経局在診断及び疾患の鑑別診断を挙げることができる。生理検査(脳波・筋電図など)・神経放射線検査(CT・MRI)の意義や所見について把握し、その適応を定めることができる。中枢神経系の解剖学的、生理学的特殊性を説明できる。意識障害の程度を的確に評価することができる。脳の各部分が障害された場合に生じる神経症状について説明できる。頭部レントゲン写真、CT、MRIで、正常解剖を説明できるとともに、各種疾患における異常所見を的確に指摘できる。代表的な脳腫瘍、脳血管障害、神経変性疾患についてその病理形態学的特徴を示すことができる。

テキスト

Merritt's Textbook of Neurology: Merritt Lewis P. Rowland (Lippincott Williams & Wilkins)

Adams and Victor's Principles of Neurology: Maurice Victor (McGraw-Hill)

神経診察: 実際とその意義 Neurological Examination A to Z: 水澤英洋, 宇川義一(中外医学社)

臨床神経内科学: 平山恵造(南山堂)

標準神経内科学: 水野美邦, 栗原照幸(医学書院)

ハリソン内科学神経疾患(メディカル・サイエンス・インターナショナル)

標準脳神経外科学: 山浦 晶, 田中隆一, 児玉南海雄(医学書院)

脳神経外科学: 太田富雄(金芳堂)

ベッドサイドの神経の診かた: 田崎義昭, 齊藤佳雄(南山堂)

神経病理を学ぶ人のために(第4版): 平野朝雄, 富安 斉(医学書院)

神経病理形態学ミクロの世界へのガイドブック: 水谷俊雄(新興医学出版社)

Neuropathology A reference text for CNS pathology (2nd edn): Ellison D, Love S, Chimelli L, Harding BN, Lowe J, Vinters HV (Mosby)

評価方法 出席・講義時の小テスト・第4学年学期末に実施する筆記試験

その他(メッセージ等) 安易に質問と答えを直結させるような勉強ではなく、常に「なぜか」「どうしてか」という物事の考え方や過程を大切にすること。そのためには発生学、神経解剖学、神経生理学などの基礎医学に立ち戻って、物事の本質を理解するように努めなくてはならない。知識は与えられるものではなく、自分で身につけるものである。疑問点は、教員に積極的に質問したり、図書館、インターネットを駆使して調べるなど、前向きな思考を持つこと。

授業計画／担当教員等

【授業計画】	
回数	月日 コマ 時間 担当科 講師 講義内容
第1回	4月5日(木)3時 限目(13:00~14:30) 神経内科／斎藤直史／神経変性疾患1(痴呆を呈する神経変性疾患)

- 第2回 4月6日(金)3時限目(13:00~14:30)
脳神経外科/佐久間 潤/頭部外傷1(総論、急性硬膜下血腫、急性硬膜外血腫)
- 第3回 4月6日(金)4時限目(14:40~16:10)
脳神経外科/佐久間 潤/頭部外傷2(脳挫傷、びまん性軸索損傷、慢性硬膜下血腫)
- 第4回 4月12日(木)3時限目(13:00~14:30)
脳神経外科/齋藤 清/脳腫瘍総論・各論Ⅰ(神経膠腫、頭蓋咽頭腫、など)
- 第5回 4月13日(金)3時限目(13:00~14:30)
神経内科/村山繁雄/脳腫瘍の病理(中枢神経系腫瘍)
- 第6回 4月13日(金)4時限目(14:40~16:10)
神経内科/村山繁雄/脳血管障害の病理(硬膜下血腫、くも膜下血腫、脳内出血、脳梗塞)
- 第7回 4月19日(木)3時限目(13:00~14:30)
脳神経外科/齋藤 清/脳腫瘍各論Ⅱ(前庭神経鞘腫、髄膜腫、頭蓋底手術など)
- 第8回 4月20日(金)3時限目(13:00~14:30)
神経内科/熊谷智広/脳血管障害(虚血性脳血管障害)
- 第9回 4月20日(金)4時限目(14:40~16:10)
神経内科/榎本博之/中枢神経脱髄性疾患(多発性硬化症・ADEMなど)
- 第10回 4月26日(木)3時限目(13:00~14:30)
脳神経外科/岸田悠吾/脳腫瘍各論Ⅲ(下垂体腺腫、内視鏡下腫瘍摘出術など)
- 第11回 4月27日(金)3時限目(13:00~14:30)
神経内科/杉浦嘉泰/発作性(機能的)疾患(てんかん・片頭痛など)
- 第12回 4月27日(金)4時限目(14:40~16:10)
神経内科/平山和美/高次脳機能障害
- 第13回 5月10日(木)3時限目(13:00~14:30)
神経内科/松田 希/末梢神経疾患1(遺伝性・栄養障害性・圧迫性など)
- 第14回 5月11日(金)3時限目(13:00~14:30)
神経内科/熊谷智広/傍腫瘍症候群(中枢神経・末梢神経・神経筋接合部)
- 第15回 5月11日(金)4時限目(14:40~16:10)
神経内科/川井 充/神経筋疾患(筋疾患・神経筋接合部疾患)
- 第16回 5月17日(木)3時限目(13:00~14:30)
神経内科/星 明彦/中枢神経感染症(脳炎・髄膜炎・プリオン病など)
- 第17回 5月18日(金)3時限目(13:00~14:30)
神経内科/村山繁雄/脱髄・炎症性疾患の病理(多発性硬化症、脳炎など)
- 第18回 5月18日(金)4時限目(14:40~16:10)
神経内科/村山繁雄/神経変性疾患の病理1(認知症を呈する変性疾患、アルツハイマー病、FTDなど)
- 第19回 5月24日(木)3時限目(13:00~14:30)
脳神経外科/市川優寛/機能的脳神経外科(てんかんの外科、三叉神経痛、顔面痙攣)
- 第20回 5月25日(金)3時限目(13:00~14:30)
脳神経外科/佐藤 拓/脳血管障害総論・各論Ⅰ(くも膜下出血、脳内出血)
- 第21回 5月25日(金)4時限目(14:40~16:10)
脳神経外科/栞記念病院脳神経外科/部長 佐藤直樹 先生/脳血管障害各論Ⅱ(閉塞性脳血管障害ほか)

- 第22回 5月31日(木)3時限目(13:00~14:30)
神経内科/楠 進/末梢神経疾患2(ギランバレー症候群・CIDPなど)
- 第23回 6月1日(金)3時限目(13:00~14:30)
脳神経外科/栞記念病院脳神経外科/部長 佐藤直樹 先生/脳血管障害各論 III(血管内治療)
- 第24回 6月1日(金)4時限目(14:40~16:10)
脳神経外科/奈良県立医科大学脳神経外科/教授 中瀬裕之 先生/脊椎・脊髄疾患の外科治療
- 第25回 6月7日(木)3時限目(13:00~14:30)
神経内科/小林俊輔/代謝性神経疾患(先天性代謝異常症など)
- 第26回 6月8日(金)3時限目(13:00~14:30)
神経内科/中原登志樹/神経変性疾患2(大脳基底核疾患)
- 第27回 6月8日(金)4時限目(14:40~16:10)
神経内科/宇川義一/神経変性疾患3(運動神経疾患・脊髄小脳変性症)
- 第28回 6月14日(木)3時限目(13:00~14:30)
脳神経外科/佐久間 潤/小児脳神経外科(二分脊椎、頭蓋縫合早期癒合、ほか)
- 第29回 6月15日(金)3時限目(13:00~14:30)
神経内科/村山繁雄/神経変性疾患の病理2(脊髄小脳変性症、パーキンソン病など)
- 第30回 6月15日(金)4時限目(14:40~16:10)
神経内科/村山繁雄/神経変性疾患の病理3(運動ニューロン疾患、筋萎縮性側索硬化症など)
- 第31回 6月21日(木)3時限目(13:00~14:30)
脳神経外科/佐久間 潤/その他の脳神経外科的疾患

【担当教員一覧】

教員氏名/職/所属/備考

宇川 義一	(教授/神経内科)
杉浦 嘉泰	(准教授/神経内科)
榎本 博之	(講師/神経内科)
星 明彦	(講師/神経内科)
小林 俊輔	(助教/神経内科)
熊谷 智広	(助教/衛生学・予防医学講座)
松田 希	(助教/神経内科)
川井 充	(非常勤講師/神経内科/国立病院機構東埼玉病院)
楠 進	(非常勤講師/神経内科/近畿大学医学部神経内科)
村山 繁雄	(非常勤講師/神経内科/東京都健康長寿医療センター研究所)
平山 和美	(非常勤講師/神経内科/山形県立保健医療大学)
斎藤 直史	(非常勤講師/神経内科/大原総合病院)
中原 登志樹	(非常勤講師/神経内科/順天堂大学神経内科)
齋藤 清	(教授/脳神経外科)
佐久間 潤	(准教授/脳神経外科)
佐藤 拓	(講師/脳神経外科)
市川 優寛	(講師/脳神経外科)
岸田 悠吾	(助教/脳神経外科)
田村 貴光	(助手/脳神経外科)
織田 恵子	(助手/脳神経外科)
中瀬 裕之	(非常勤講師/脳神経外科/奈良県立医科大学脳神経外科教授)
佐藤 直樹	(非常勤講師/脳神経外科/栞記念病院脳神経外科部長)

科目・コース(ユニット)名	成長・発達2【医学4】						
(英語名称)							
担当責任者	細矢光亮 北條 洋						
開講年次	4年	開講学期	前期	必修／選択	必修	授業形態	講義・実習

概要／方針等

〈小児血液・悪性腫瘍学〉
 小児血液・悪性腫瘍は小児の死亡原因の大きな部分を占めており、小児疾患のなかでも優先して解決していかなければならない・大きな問題である。このためには、小児血液・悪性腫瘍の全体像を把握し、成長・発達と関連づけ、成人との相違について十分に理解する。また、臨床実習のための基礎知識の一環として不可欠である。

〈小児腫瘍の病理〉
 小児期に発生する腫瘍の病理組織学特徴を学び、小児腫瘍の診断、病態、生物学的特性と腫瘍発生の理解を深め臨床診断や治療に反映させる。小児医療における小児がん登録とGroup Study(大規模多施設研究体制)の役割、意義について理解を深める。

〈小児感染症〉
 感染症は小児の日常診療において最も多い疾患であり、代表的感染症については十分な知識が要求される。特に発疹症、下気道炎、消化管感染症、脳炎・髄膜炎などに関連するウイルスや細菌感染症については、そのイメージをつかんでもらいたい。また、感染症患者からの罹患、逆に未感染者への伝播といった職業感染を防ぐためにも、それぞれの感染症の感染経路、その予防策について理解して頂きたい。

〈小児循環器学〉
 小児の循環の特徴を理解し、主な小児循環器疾患について学ぶ。

〈小児循環器外科〉
 各種先天性心疾患の外科治療の適応・方法・合併症を中心に小児心臓手術の実際を理解しうるように講義を行う。

〈小児消化器学〉
 小児消化器疾患全般に関する概念を理解し、診断と治療に役立てることができる。

〈小児外科〉
 小児特有の多岐にわたる疾患について、外科の講義で手術治療を中心に学習することで、小児の解剖・病態生理の理解を深めることを目的とする。小児外科学の代表的疾患につき講義する。

〈小児内分泌・代謝学〉
 小児に特有な内分泌代謝系疾患について理解を深める。

〈性分化異常〉
 性染色体および性ホルモンが生殖器の発生・成長に及ぼす影響を学ぶ。

〈小児救急〉
 救急医療では、1次も2次も3次病院も子どもが最も多い。その殆どは1次救急に相当する病気であるが、親にとっては重大問題である。診断を進めるにあたっては、急患であるので概診で応急処置をせねばならない。ゆえに一応どのような病気でも概診を下せる力を保持すべきである。本講義では、急変しやすい子どもの病気の特徴を理解し、これらの対応の基本を教示したい。

学習目標

〈小児血液・悪性腫瘍学〉
 一般目標(GIO)
 小児の血液・悪性腫瘍の疫学、病因、病態生理症候の把握に基づく診断と治療を学ぶとともに、これらのすべての面に関して、成人との相違について理解する。

- 行動目標(SBOs)
- ①小児の血液・悪性腫瘍の疫学(発生頻度、発生要因)に関して、具体的に述べることができ、成人との相違について説明できる。
 - ②小児の血液・悪性腫瘍の病理組織、分子生物学について、治療方針、予後と関係づけ説明できる。
 - ③小児の血液・悪性腫瘍の病態と症候を関連づけて説明し、必要な検査項目を列挙し、診断に結び付けることができる。
 - ④小児の血液・悪性腫瘍の診断に基づき、適切な治療法(外科療法、放射線療法、化学療法)を選択し、成人との相違について説明できる。
 - ⑤小児の血液・悪性腫瘍に対する造血幹細胞移植療法に関して、移植の種類と適応および合併症を説明

⑥小児の血液・悪性腫瘍に対する支持療法に関して具体的に述べるができる。

〈小児腫瘍の病理〉

一般目標 (GIO)

小児期に発生する腫瘍の病態と特徴、ならびに組織形態学的変化を理解する。小児医療の発展における小児がん登録とGroup Studyの重要性について学ぶ。

行動目標 (SBOs)

- ①小児腫瘍の種類と頻度 (特に成人との違い)、初発年齢を概説できる。
- ②小児腫瘍の生物学的態度、成因 (先天異常と遺伝子異常) を説明できる。
- ③小児腫瘍の治療とその障害について説明できる。
- ④代表疾患の列挙し、組織形態学的特徴を発表・概説できる。
- ⑤児腫瘍におけるGroup Study を概説できる。

〈小児感染症〉

一般目標 (GIO)

小児感染症の病因と病態を理解し、その診断、治療、予防法を修得する。

行動目標 (SBOs)

- ①小児における主なウイルス感染症 (単純ヘルペスウイルス、水痘帯状疱疹ウイルス、サイトメガロウイルス、EB ウイルス、突発性発疹、麻疹、風疹、伝染性紅斑、流行性耳下腺炎、RS ウイルス、エンテロウイルス、アデノウイルス、ロタウイルスなど) の病態を説明し、診断法と治療法を説明することができる。
- ②小児における主な細菌感染症 (ブドウ球菌、レンサ球菌、インフルエンザ菌、肺炎球菌、百日咳、ボツリヌス、ジフテリア、サルモネラ、病原性大腸菌、エルシニア、カンピロバクター、結核など) の病態を説明し、診断法と治療法を説明することができる。
- ③小児におけるその他の感染症 (マイコプラズマ、クラミジア、リケッチア、原虫・真菌) の病態を説明し、診断法と治療法を説明することができる。
- ④現在行われている定期予防接種と任意予防接種を示し、その接種方法を説明することができる。

〈小児循環器学〉

一般目標 (GIO)

小児循環の特徴を理解し、主な小児循環器疾患の病態生理、症候を把握し、診断および治療方針について学ぶ。

行動目標 (SBOs)

- ①小児の循環の特徴を成人との相違点を中心に理解し、説明できる。
- ②心電図の肥大所見を理解し、また心電図所見の経年齢的变化を説明できる。
- ③心疾患を合併することの多い症候群を理解し、その心疾患の内容について説明できる。
- ④先天性心奇形の疫学について、全出生数に対する発生頻度と疾患別頻度を説明できる。
- ⑤主な先天性心奇形について、病態生理を理解し、症候およびレントゲン所見、心電図所見、心エコー所見、造影所見等の検査所見を説明できる。また、治療法について主な手術方法を含めて説明できる。
- ⑥後天性心疾患のうち、感染性心内膜炎、川崎病の冠動脈病変、心筋炎、心筋症について、病態および検査所見、治療法について説明できる。

〈小児循環器外科〉

一般目標 (GIO)

各種先天性心疾患の病態・症状・内科的治療を理解した上で、外科治療の適応・方法・合併症を学ぶ。

行動目標 (SBOs)

- ①心臓の解剖・構造を理解し、小児心臓手術の際の注意点を説明できる。
- ②人工心臓を使用した小児開心術の概要を説明できる。
- ③各種先天性心疾患の手術適応を説明できる。
- ④各種先天性心疾患の外科治療方針を理解し、説明できる。
- ⑤外科治療の合併症と対策を説明できる。

〈小児消化器学〉

一般目標 (GIO)

消化管、肝臓、胆管、脾臓の構造と機能を理解し、主な消化器疾患の病因、病態生理症候の把握に基づく診断と資料を学ぶ。

行動目標 (SBOs)

- ①各種消化管部位における主要症状、病態生理、検査、診断の一般的理解に基づき、身体機能調節機構を説明できる。
- ②口唇、舌、歯、口腔、耳下腺、食道、胃の構造とその生理的機能を理解し、各種口唇、舌、歯、口腔、耳下腺、食道、胃疾患の病因、病態生理、症候の把握に基づく診断と治療を説明できる。
- ③小腸や大腸の構造とその生理的機能を理解し、各種小腸や大腸疾患の病因、病態生理、症候の把握に基づく診断と治療を説明できる。
- ④肝臓、胆嚢、胆管や脾臓の構造とその生理的機能を理解し、各種肝臓、胆嚢、胆管や脾臓の病因、病態生理、症候の把握に基づく診断と治療を説明できる。

<p>〈小児外科〉 一般目標 (GIO) 新生児、乳児、幼児外科的疾患の病態生理、症候、診断と治療を学ぶ。 行動目標 (SBOs) 先天性横隔膜ヘルニア、食道閉塞症、肥厚性幽門狭窄症、先天性十二指腸閉塞症、先天性小腸閉鎖症、Hirschsprung 病、鎖肛、胆道閉鎖症、先天性胆道拡張症、先天性腹壁欠損先天性肺嚢胞、固形腫瘍につき病態生理、症候、診断を説明できる。</p> <p>〈小児内分泌・代謝学〉 一般目標 (GIO) 内分泌代謝系器官の構造と機能を理解し、小児に特有な疾患の症候、病態生理を把握してその診断と治療法を学ぶ。 行動目標 (SBOs) 基本的なホルモンの構造、作用機序、分泌調節機構に関してはすでに理解しており説明できる。 ①新生児期に発症し、早期に診断・治療を要する疾患についてその診断、治療を説明できる：先天性副腎皮質過形成症、先天性生甲状腺機能低下症など。 ②小児で成長発育に影響を及ぼす重要な疾患についてその診断、治療を説明できる：成長ホルモンや性ホルモン、甲状腺ホルモン系の異常に基づく疾患など。 ③性徴出現に影響を及ぼす疾患についてその診断、治療を説明できる：副腎系ホルモンや性ホルモン系の異常に基づく疾患など。 ④電解質・水代謝に影響を及ぼす疾患についてその診断、治療を説明できる：副甲状腺ホルモンや副腎系ホルモンの異常に基づく疾患など。 ⑤その他、成人で認められる内分泌疾患は、そのほとんどが小児でも発症しうるのでそれら疾患の診断や治療について説明できる。 ⑥先天代謝異常について種類及び診断、治療を説明できる。 ⑦1、2型糖尿病や低血糖症、肥満の病態、症状、検査、治療について説明できる。</p> <p>〈性分化異常〉 一般目標 (GIO) 性染色体、および性ホルモンが、人件、特に生殖器の発生・成長に及ぼす影響を理解できる。 行動目標 (SBOs) ①性分化の機序を説明できる。 ②第一性決定機構の異常と疾患名を列挙し、各疾患における染色体構成、性腺および外生殖器発育の特徴を説明できる。 ③男性・女性半陰陽の原因と特徴を説明できる。 ④性分化異常の治療方針を理解できる。</p> <p>〈小児救急〉 一般目標 (GIO) 小児救急の現状を知り、小児急患に多い主訴と疾患、診察時の留意点、診断の下し方、重症度の判断、応急処置などプライマリーケアの実際を学ぶ。 行動目標 (SBOs) ①小児急患に多い主訴と疾患、そしてその対応を説明できる。 ②主訴として最も多い発熱患児の診察時の留意点、緊急性、診断の進め方、年齢別にみた原因、鑑別診断、咽頭所見のみかたを説明できる。 ③重症度判定と治療計画の立て方を説明できる。 ④応急処置、薬物療法、救急医療の実際などを概説できる。</p>	<p>テキスト</p> <p>参考書</p> <p>〈小児血液・悪性腫瘍学〉 ・Nathan and Oskin ' s Hematology of Infancy and childhood ・Principles and Practice of Pediatric Oncology</p> <p>〈小児感染症〉 ・Textbook of Pediatric Infectious Diseases 5th edition SAUNDERS ・Red Book 26th edition American Academy of Pediatrics ・日常診療に役立つ小児感染症マニュアル 東京医学社</p> <p>〈小児循環器外科〉 ・先天性心疾患手術書(メジカルビュー社)</p> <p>〈小児外科〉 ・標準小児外科学(医学書院) ・新版小児外科学(診断と治療社) ・臨床小児外科学(医歯薬出版株式会社)</p>
---	---

評価方法	出席日数及び筆記試験により総合的に判定される。
その他(メッセージ等)	<p>学習上の留意事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 講義で全ての項目をカバーすることは時間的に不可能であるので、不足分は自学自習を原則とする。 2. 授業は単に知識を得ることが目的ではなく、主体的な施行により基本的知識・技術の意義と論理的思考法を習得することを原則とする。 3. 心疾患で苦しむ子供たちを救うための小児心臓手術の実際に触れて理解してほしい。授業中・後の質問をおおいに歓迎する。

授業計画/担当教員等
<p>【授業計画】</p> <p>1回・4月 9日(月)3時限/小児血液・悪性腫瘍の総論/佐野秀樹 2回・4月 9日(月)4時限/白血病、固型腫瘍、血液疾患/佐野秀樹 3回・4月16日(月)3時限/小児悪性腫瘍の病態と特徴/北條 洋 4回・4月16日(月)4時限/実習(症例観察)Ⅰ/北條 洋 5回・4月23日(月)3時限/実習(症例観察)Ⅱ/北條 洋 6回・4月23日(月)4時限/症例観察のまとめ/北條 洋 7回・5月 7日(月)3時限/小児ウイルスの感染症/細矢光亮 8回・5月 7日(月)4時限/小児感染症/細矢光亮 9回・5月14日(月)3時限/先天性心疾患総論、先天性心疾患各論Ⅰ/桃井伸緒 10回・5月14日(月)4時限/先天性心疾患各論Ⅱ、後天性心疾患/桃井伸緒 11回・5月21日(月)3時限/小児消化器疾患/川崎幸彦 12回・5月21日(月)4時限/小児アレルギー/川崎幸彦 13回・5月28日(月)3時限/小児循環器外科Ⅰ/若松大樹 14回・5月28日(月)4時限/小児循環器外科Ⅱ/若松大樹 15回・6月 4日(月)3時限/小児内分泌疾患/陶山和秀 16回・6月 4日(月)4時限/小児代謝性疾患/陶山和秀 17回・6月11日(月)3時限/小児外科Ⅰ/伊勢一哉 18回・6月11日(月)4時限/小児外科Ⅱ/伊勢一哉 19回・6月18日(月)3時限/性分化/羽賀宣博 20回・6月18日(月)4時限/小児救急疾患/細矢光亮</p> <p>【担当教員一覧】</p> <p>細矢 光亮・教授・小児科学講座(小児感染症学) 北條 洋・准教授・病理病態診断学講座(小児腫瘍の病理) 川崎 幸彦・准教授・小児科学講座(小児消化器学) 桃井 伸緒・准教授・総合周産期母子医療センター(小児循環器学) 佐野 秀樹・講師・小児科学講座(小児血液・悪性腫瘍学) 若松 大樹・講師・心臓血管外科学講座(小児循環器外科) 陶山 和秀・講師・小児科学講座(小児内分泌・代謝学) 伊勢 一哉・講師・臓器再生外科学講座(小児外科学) 羽賀 宣博・助教・泌尿器科学講座(性分化異常)</p>

科目・コース(ユニット)名	生殖・周産期【医学4】						
(英語名称)	Obstetrics and Gynecology						
担当責任者	藤森敬也						
開講年次	4年	開講学期	1・2期	必修／選択	必修	授業形態	講義・実習

概要／方針等	
<p>産科婦人科学は医学の根源である生命の発生、およびこれに深いかかわりをもつ生殖器官の病理に関する臨床医学である。現代では、生殖に直接かかわりのある産科学と女性性器の疾患を取り扱う婦人科学に大別され、また別記に示すように多くの専門分野に細分されているが、これらを生殖医学という領域で総合的な視野で捉えることが必要である。しかし、これを理解するには基礎的知識に限定しても発生、遺伝、解剖、生理、病理、保健、予防衛生学と幅の広い領域に及び、さらに、その臨床応用の知識に至っては、正に日進月歩、且つ膨大で、これらを短時間で知りうることはきわめて困難である。したがって授業方針としては母子双方の生命の尊厳と生命の誕生の原理を理解し、現時点での医学レベルを体得してもらうことに重点をおく。</p>	
学習目標	
<p>一般目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 正常妊娠、正常分娩の機転について理解し、異常妊娠、異常分娩の病因、病態生理、治療法を学習する。 2 骨盤内臓器の発生、局所解剖および間脳視床下部—下垂体—卵巣—子宮の内分泌学的構造、機能を理解し、女性生殖器系の疾患の病態生理および不妊症を主とした生殖内分泌疾患を理解する。 <p>行動目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 妊娠の成立機序を時間経過とともに説明できる。 2 分娩の3要素を踏まえて、正常分娩経過を説明できる。 3 正常妊娠、分娩の診断に必要な超音波、胎児心拍数モニタリングの所見を評価できる。 4 以上の正常経過を把握した上で、異常妊娠の病態生理を理解し、治療の基本方針について説明できる。 5 妊婦には内科的、外科的疾患が合併しやすいが、合併症の基礎知識を把握した上で合併症が妊娠に与える影響および妊娠が合併症に与える影響を説明でき、妊娠により変化する母体の状態が説明でき、妊娠、分娩、産褥時管理上の留意点を挙げるができる。 6 出生前胎児診断の方法論を理解し、子宮内胎児治療などの最新の知識を知る。また、倫理上の問題点を説明できる。 7 小骨盤内臓器の発生を理解し、女性生殖器奇形、配偶子形成について説明できる。 8 間脳—視床下部—下垂体—卵巣—子宮系の内分泌学的なaxisとその制御機構を説明できる。 9 良性および悪性婦人科腫瘍の疫学、診断法、治療法の基本が説明できる。 10 CT、MRI を主とした婦人科画像診断ができる。 11 女性の急性腹症の診断、治療について説明できる。 12 不妊症の診断、治療および最近の生殖補助医療技術について説明できる。 13 更年期婦人の内分泌学的特徴とホルモン補充療法の意義について説明できる。 	
テキスト	特に指定しない。
参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 病気がみえる vol. 9 婦人科・乳腺外科 第2版 MEDIC MEDIA 3,000円 2. 病気がみえる vol. 10 産科 第2版 MEDIC MEDIA 3,300円 3. 池ノ上克ら:エッセンシャル産婦人科学 第3版 医歯薬出版株式会社 9,660円 4. Cunningham, MacDonard, Gant et al: Williams Obstetrics, 23 Edition. McGraw Hill 2010 5. Berek & Novak's Gynecology, 14th Edition, Lippincott Williams & Wilkins 6. Creasy and Resnik: Maternal-Fetal Medicine, 5th Edition W. B. Saunders. 7. 日本産婦人科学会編:産婦人科研修の必修知識、2011 日本産婦人科学会 10,000円
評価方法	<p>授業の評価は、以下の試験その他の方法により総合的に判定される。</p> <p>第4学年次後期末(進級試験、○×問題200題(90%以上合格)による)</p> <p>第5学年次病院実習(口頭試問・レポートによる)</p> <p>第6学年次後期末(卒業試験、多肢選択式試験(60%以上合格)による)</p>
その他(メッセージ等)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 1時限の講義で解説される内容は膨大であり、各自知識の整理は自主的に行う必要がある。 2. 講義はプリントおよびスライドを主に用いて行われるが、不明な点は講義の中での質問などにより明らかにしておく必要がある。 3. 次年度臨床実習で行われるセミナー形式の講義は講師、時間の制約により産科婦人科学全般を網羅することは不可能であり、基礎知識の習得は系統講義が主になることを念頭におく。 4. 講義への積極的な出席を期待する。

授業計画／担当教員等					
回数	月日	曜日	時限	項目内容(キーワード等)	担当者
1	4/10	火	1	婦人科学 女性器の構造と性機能	藤森敬也
2	4/10	火	2	婦人科学 性分化と性器形態の異常	藤森敬也
3	4/17	火	1	婦人科学 月経の異常	藤森敬也
4	4/17	火	2	婦人科学 女性の加齢に伴う変化・骨盤内臓器脱	藤森敬也
5	4/24	火	1	婦人科学 性器の炎症・STD	藤森敬也
6	4/24	火	2	婦人科学 不妊症・避妊法	藤森敬也
7	5/1	火	1	婦人科学 子宮内膜症	藤森敬也
8	5/1	火	2	婦人科学 子宮筋腫・子宮腺筋症	藤森敬也
9	5/8	火	1	婦人科学 子宮頸癌	藤森敬也
10	5/8	火	2	婦人科学 子宮体癌	藤森敬也
11	5/15	火	1	婦人科学 卵巣腫瘍	藤森敬也
12	5/15	火	2	婦人科学 絨毛性疾患	藤森敬也
13	5/22	火	1	婦人科学 外陰・陰・卵管疾患	藤森敬也
14	5/22	火	2	婦人科学 婦人科救急疾患(急性腹症)	藤森敬也
15	5/29	火	1	産科学 正常妊娠(妊娠の成立・母体の生理的变化・母体と胎児の管理)	藤森敬也
16	5/29	火	2	産科学 正常分娩(分娩の3要素)	藤森敬也
17	6/5	火	1	産科学 正常分娩(分娩介助と緊急時の対応)	藤森敬也
18	6/5	火	2	産科学 異常分娩(分娩3要素の異常、胎児機能不全)	藤森敬也
19	6/12	火	1	産科学 正常・異常産褥、産科手術	藤森敬也
20	6/12	火	2	産科学 胎児well-being 評価(CTG・BPS)	藤森敬也
21	6/19	火	1	産科学 流産・早産	藤森敬也
22	6/19	火	2	産科学 産科領域における画像診断	藤森敬也
23	7/3	火	1	産科学 産科学妊娠高血圧症候群	藤森敬也
24	7/3	火	2	産科学 常位胎盤早期剥離・前置胎盤	藤森敬也
25	7/10	火	1	婦人科学 女性生殖器の病理Ⅰ(講義)	橋本優子
26	7/10	火	2	婦人科学 女性生殖器の病理Ⅰ(実習)	橋本優子
27	7/17	火	1	婦人科学 女性生殖器の病理Ⅱ(講義)	橋本優子
28	7/17	火	2	婦人科学 女性生殖器の病理Ⅱ(実習)	橋本優子
29	7/24	火	1	婦人科学 女性生殖器の病理Ⅲ(講義)	橋本優子
30	7/24	火	2	婦人科学 女性生殖器の病理Ⅲ(実習)	橋本優子
31	9/18	火	1	産科学 多胎妊娠	藤森敬也
32	9/18	火	2	産科学 子宮内胎児発育遅延	藤森敬也
33	9/25	火	1	産科学 血液型不適合妊娠・羊水量の異常	藤森敬也
34	9/25	火	2	産科学 周産期感染症(TORCHの症候群)	藤森敬也
35	10/2	火	1	産科学 産科DIC・産科ショック	藤森敬也
36	10/2	火	2	産科学 合併症妊娠(妊娠糖尿病)	藤森敬也
37	10/9	火	1	産科学 合併症妊娠(その他)	藤森敬也
38	10/16	火	1	産科学 新生児の異常	佐藤真紀
39	10/23	火	1	産科学 胎児治療と先進医療	千葉敏雄
40	10/30	火	1	婦人科学 生殖補助医療	星和彦

当教員一覧			
教員氏名	職	所属	備考
藤森敬也	教授	福島県立医科大学医学部産科婦人科	
小宮ひろみ	准教授	福島県立医科大学医学部産科婦人科	性差医療センター
橋本優子	講師	福島県立医科大学医学部病理病態診断学	
西山 浩	講師	福島県立医科大学医学部産科婦人科	
渡辺尚史	講師	福島県立医科大学医学部産科婦人科	
高橋秀憲	講師	福島県立医科大学医学部産科婦人科	総合周産期センター
野村泰久	講師	福島県立医科大学医学部産科婦人科	
菅沼亮太	助教	福島県立医科大学医学部産科婦人科	
添田 周	助教	福島県立医科大学医学部産科婦人科	
浅野仁覚	助教	福島県立医科大学医学部産科婦人科	総合周産期センター
佐藤真紀	助教	福島県立医科大学附属病院・総合周産期母子医療センター(新生児部門)	
千葉敏雄	部長	国立成育医療研究センター・臨床研究開発部	
星 和彦	院長	スズキ記念病院	

科目・コース(ユニット)名	運動器・リハビリテーション【医学4】						
(英語名称)							
担当責任者	紺野慎一・北條 洋						
開講年次	4年	開講学期	2期	必修/選択	必修	授業形態	講義

概要/方針等
 整形外科は、運動器外科、機能外科とも呼ばれ、四肢と体幹の運動機能を追求する学問である。すなわち、疾病や外傷によって障害された運動機能を再建したり、疼痛を改善させたりすることで、患者の生活の質を回復あるいは向上させることがその目的である。整形外科学は、系統講義と臨床実習からなる。系統講義では、四肢と体幹の機能障害をもたらす病態を把握し、診断および診療に必要な基礎知識を修得する。

学習目標

一般目標
 運動器疾患の診断と治療の基本的知識を修得するために、運動器である四肢と体幹の構造と機能を理解し、運動器疾患の病因、病態生理、症候学について学ぶ。

- 行動目標**
1. 脊椎・脊髄と四肢関節の構造と機能を説明できる。
 2. 脊椎・脊髄疾患の病因、病態生理を説明できる。
 3. 脊椎・脊髄疾患の症候に基づく、診断を列挙することができる。
 4. 四肢関節疾患の病因、病態生理を説明できる。
 5. 四肢関節疾患の症候に基づく、診断を列挙することができる。
 6. 整形外科で扱う救急外傷の種類と特徴を説明できる。
 7. 上下肢のスポーツ傷害とその受傷機転および予防法を説明できる。
 8. 小児に特有の整形外科疾患の種類を列挙することができる。
 9. 見逃してはいけない悪性骨・軟部腫瘍の症候と初期治療を説明できる。
 10. 整形外科で行われるプライマリケアについて述べるができる。
 11. 疼痛の分類とその分子生物学的機序について説明できる。
 12. 慢性疼痛性疾患と精神神経疾患との関わりについて、述べるができる。
 13. リハビリテーションの理論とその方法について、説明できる。

テキスト 特に指定しない

書名	著者・編者	出版社	出版年
標準整形外科学 第11版	内田淳正監修	医学書院	2011
図解四肢と脊椎の診かた	Hoppenfeld S(著) 首藤 貴(訳)	医歯薬出版	1984
整形外科医のための神経学図説 -脊髄・神経根障害レベルのみかた, おぼえかた	Hoppenfeld S(著) 津山直一(訳)	南江堂	2005
整形外科プライマリハンドブック	片田重彦・石黒 隆著	南江堂	2004
NEW MOOK 整形外科シリーズ 1-17	越智隆弘・ 菊地臣一編集	金原出版	1997-2005
整形外科外来シリーズ	越智隆弘・ 菊地臣一・ 龍 順之助編集	メジカルビュー社	1997-2000

評価方法 第4学年次後期末に筆記試験を実施し、総合的に判定する。

その他(メッセージ等)
学習上の留意事項
 1. 学生は、教えてもらうという態度ではなく、自ら学ぶ姿勢で臨床実習に臨んでもらいたい。何事にも疑問を持って、担当教員に質問をぶつけてもらいたい。
 2. 解剖学は、整形外科学の理解のために必須であるので、講義前に解剖学の復習が必要である。
 3. 医学用語は定義を暗記ではなく、理解することが重要である。
 4. 出席の確認と、前回の講義内容を整理する目的で、講義開始前にミニテストを実施する。遅刻者には、ミニテストの用紙を配布しない。講義開始前に着席していること。ミニテストの用紙は講義終了後に回収する。

5. 講義終了時点で、出席日数が規程の日数に達しなかった場悪性には、評価試験の受験資格を与えない。

授業計画／担当教員等

授業計画

回数	月日	曜日	時限	項目	key word	担当
1	7/2	月	II	腰椎	腰椎椎間板ヘルニア	紺野慎一
2			III	腰痛とEBM	非特異的腰痛	関口美穂
3			IV	頸胸椎・骨粗鬆症	脊髓症・骨粗鬆症	大谷晃司
4	7/9	月	II	上肢スポーツ傷害	投球障害・野球肘	大歳憲一
5			III	痛みのサイエンス	生理学・分子生物学	半場道子
6			IV	リエゾン精神医学	身体表現性障害	佐藤勝彦
7	7/23	月	II	膝関節・下肢スポーツ傷害	変形性膝関節症・前十字靭帯損傷	沼崎広法
8			III	手の外科・再建外科	手根管症候群・顕微鏡手術	江尻荘一
9			IV	肩関節	肩腱板断裂・肩関節脱臼	宍戸裕章
10	9/24	月	III	股関節・関節リウマチ	変形性股関節症・人工股関節	青田恵郎
			IV	補講		
11	10/1	月	III	足の外科	外反母趾	大内一夫
12			IV	小児整形外科・骨系統疾患	先天性股関節脱臼	武田幸恵
13	10/11	木	V	整形外科 Primary care I	Primary care	片田重彦
14	10/15	月	III	リハビリテーション	運動器リハビリ	矢吹省司
15			IV	整形外科救急・外傷	骨折・外傷性切断	川上亮一
				地域医療・医療制度	病診連携	齋藤 昭
16	10/18	木	V	整形外科 Primary care II	Primary care	石黒 隆
17	10/22	月	III	骨・軟部腫瘍	骨肉腫・軟部肉腫	田地野崇宏
18			IV	病理実習	骨腫瘍	北條 洋

担当教員

教員名	職名	所属
紺野慎一	教授	福島県立医科大学医学部整形外科学講座
矢吹省司	教授	福島県立医科大学医学部整形外科学講座
北條 洋	准教授	福島県立医科大学医学部病理病態診断学講座
青田恵郎	准教授	福島県立医科大学医学部整形外科学講座
大谷晃司	准教授	福島県立医科大学医療人育成・支援センター
田地野崇宏	准教授	福島県立医科大学医学部整形外科学講座
宍戸裕章	講師	福島県立医科大学医学部整形外科学講座
関口美穂	講師	福島県立医科大学医学部整形外科学講座
江尻荘一	学内講師	福島県立医科大学医学部整形外科学講座
大内一夫	学内講師	福島県立医科大学医学部整形外科学講座
沼崎広法	学内講師	福島県立医科大学医学部整形外科学講座
川上亮一	助教	福島県立医科大学医学部整形外科学講座
大歳憲一	助教	福島県立医科大学医学部整形外科学講座
半場道子	客員講師	福島県立医科大学医学部整形外科学講座
石黒 隆	客員講師	いしごろ整形外科
片田重彦	客員講師	医療法人かたがた整形外科
佐藤勝彦	非常勤講師	財団法人大原綜合病院
齋藤 昭	非常勤講師	桜ヶ丘さいとう整形外科
武田幸恵	非常勤講師	福島県立医科大学医学部整形外科学講座

科目・コース(ユニット)名	皮膚・形成【医学4】						
(英語名称)							
担当責任者	山本 俊幸 上田 和毅						
開講年次	4年	開講学期	1・2期	必修／選択	必修	授業形態	講義

概要／方針等

〈皮膚科学分野〉
 皮膚科学は年々細分化されてきているものの、皮膚に表現される症状のすべてを取り扱う。そのため、皮膚病変を理解するためには、皮膚の解剖学、生理学、生化学、免疫・アレルギー学、分子生物学などの基礎医学のみならず、内科学的知識や外科学的手技を駆使した多方面からのアプローチが要求される。
 4年生次では、皮膚科学の基本的事項について学習する。発疹学の基礎を学び、その発疹を形成している病理組織学的な変化についても理解を深める。臨床例については理解を容易にするために、多数のスライドを中心にして講義を行う。皮膚疾患は非常に多数あるので、重要な疾患にしぼらざるを得ないが、授業でとり上げられなかった疾患についても、自己学習が義務づけられていることを自覚して欲しい。
 皮膚科は病名が多く、難しい漢字も多いので勉強しにくいという声がよく聞かれるが、実は皮膚のトラブルを経験したことがない人はいないほど、皮膚科学はわれわれの身近にある学問なのである。皮膚科学に対するアレルギーを取り除き、講義を通じて皮膚科学の面白さを是非実感してもらいたい。

〈形成外科学分野〉
 形成外科は、先天性であるか後天性であるかを問わず、外貌に影響を与え得る組織が損なわれた場合、形態的にも機能的にもこれを元の状態に復させようとする外科である。
 歴史的には、かつて戦傷外科とも称され、戦闘によって生じた傷をいやすことをその主な仕事としていたこともある。実際、戦争を経るごとに形成外科は新しい技術を加え、進歩してきたものであり、古くは捕虜や犯罪人に対する古代インドの「鼻そぎの刑」の受難者の治療に始まり、近くは第二次世界大戦中の戦傷者の治療まで、人間の歴史の陰の部分に関わりつづけた医学である。先天的な体表奇形に対しても、Pare の有名な唇裂手術に見られるように、神の不在を補うべく患者の受難に対して果敢な外科手術を試みてきた。
 わが国において、形成外科が独立した診療科として人々に認知されたのは、おそらく原爆被災者のやけどの治療に戦後アメリカから形成外科医が派遣され、治療を行ったのが最初ではないと思われる。昭和32年には東京大学に初めての形成外科診療班が発足し、日本人専門医による本格的な形成外科診療が開始された。その後、幸いにして、日本は戦争のない平和な時代をすごしてきたが、以来60年近く、形成外科は今度は戦争とは無関係に進歩発展を続けてきた。その理由としては、先天奇形や外傷以外に外科手術や内科的疾患に伴う組織欠損や変形の治療にも領域を広げてきたこと、技術的進歩がこれまであきらめられてきた状態の改善を可能にしたことなどが挙げられる。
 形成外科は、臓器別に名を冠せられた科とは異なり、組織の種類に縛られず、非常に多くの疾患を扱う。他科との関連も複雑で、また現在も扱う領域は広がっているため、概念をつかみにくい。そのため、授業では、歴史的な背景を含めて「形成外科とは何か」という基本的なことの説明から始め、臨床例に及んで、具体的にいかなる疾患を扱っているのか、またどのように扱っているのかを理解してもらうようにする。将来、どの科を専攻しても役に立つと思われる形成外科の知識を伝えることを主眼とした授業を行いたいと考える。

学習目標

- 〈皮膚科学分野〉
- 一般目標 1 皮膚疾患の概念を理解し、確定診断を行うのに必要な知識を身に付ける。
 2 皮膚の正常構造、皮膚疾患の病理所見を読み取ることにより、皮膚疾患の発生機序を理解する。
- 行動目標 1 原発疹、続発疹の定義に従って皮膚所見を正確に取ることができる。
 2 皮膚所見から考えられる診断、および鑑別すべき疾患が列挙できる。
 3 鑑別に必要な検査法が列挙できる。
 4 初診の際に迅速に施行可能な皮膚描記症、真菌検査、Wood 灯、ウイルス検査、Tzanck 試験などが実施できる。
 5 光線過敏性試験、パッチテスト、皮内テスト、スクラッチテスト、発汗テスト、皮膚生検などの検査法が理解できる。
 6 皮膚の正常構造が説明できる。
 7 皮膚病理所見が説明できる。

〈形成外科学分野〉

一般目標 形成外科の基本手技とその理論的背景を理解する。
 行動目標 皮膚、脂肪、骨、軟骨、筋肉、筋膜、陰茎の移植形式と生着機序を説明できる。

テキスト	標準形成外科(医学書院)
	池田重雄他「標準皮膚科学」医学書院 上野賢一他「小皮膚科学」金芳堂

参考書	飯塚一 他「New 皮膚科学」南江堂 小川秀興他「TEXT 皮膚科学」南山堂 清水 宏「あたらしい皮膚科学」中山書店 山田 瑞穂「皮膚科学考え方学び方」金原出版 図説形成外科学講座(1~8巻、メジカルビュー社) Plastic Surgery(Vol. 1~8、Mathes 編、Saunders)
評価方法	授業の評価は平常点、レポート、試験その他の方法により総合的に判定される。
その他(メッセージ等)	授業中に提示する症例写真は、幾多の症例から選び抜かれたものである。多くの情報を含んでおり、また再度見る機会がない貴重なものと思っ見て欲しい。

授業計画/担当教員等							
〈皮膚科学分野〉							
回数	月	日	曜日	時限	項目	内容	担当者
1	4	5	木	IV	皮膚科総論		山本
2	4	12	木	IV	湿疹・皮膚炎群		花見
3	4	19	木	IV	紅斑症、紫斑、光線過敏症		山本
4	4	26	木	IV	皮膚の検査法、治療法		加藤
5	5	10	木	V(注意)	真菌症		竹之下
6	5	17	木	IV	角化症・膿疱症		佐藤
7	5	24	木	IV	実地皮膚科診療		岸本
8	5	31	木	IV	水疱症		佐藤
9	6	7	木	IV	悪性腫瘍、皮膚リンパ腫		大塚
10	6	14	木	IV	悪性黒色腫、熱傷		大塚
11	6	21	木	IV	膠原病、血管炎		山本
〈形成外科学分野〉							
回数	月	日	曜日	時限	項目	内容	担当者
1	6	20	水	IV	総論1	歴史・診断学	上田和毅(教授)
2	7	4	水	IV	総論2	基本手技1	上田和毅
3	7	11	水	IV	総論3	基本手技2	上田和毅
4	7	18	水	IV	各論1	先天異常	上田和毅
5	7	25	水	IV	各論2	腫瘍	梶川明義(准教授)
6	9	12	水	IV	各論3	外傷・腫瘍	梶川明義
7	9	19	水	IV	各論4	潰瘍・褥瘡	大河内真之(講師)
8	9	26	水	IV	各論5	顔面神経麻痺・リンパ浮腫	上田和毅
9	10	3	水	IV	各論6	瘢痕・ケロイド	望月靖史(講師)
〈担当教員〉							
教授	山本俊幸	(皮膚科)					
准教授	大塚幹夫	(皮膚科)					
講師	佐藤正隆	(皮膚科)					
助教	加藤保信	(皮膚科)					
助教	花見由華	(皮膚科)					
助手	三浦貴子	(皮膚科)					
教授	上田和毅	(形成外科)					
准教授	梶川明義	(形成外科)					
講師	大河内真之	(形成外科)					
講師	望月靖史	(形成外科)					

科目・コース(ユニット)名	視覚【医学4】						
(英語名称)	VISUAL SCIENCE course						
担当責任者	石龍 鉄樹						
開講年次	4年	開講学期	1・2期	必修／選択	必修	授業形態	講義

概要／方針等

眼科学は、いわゆる総論としての局所解剖、眼生理/機能学、診断の手法(診断学)、問診の方法、および各論としての眼科疾患における組織病態、診断・治療からなる。一般内科や外科とは異なり、問診・視診が診断の根拠となることが多いのが特徴である。また、眼は全身疾患の窓口を果たすことが多いこと、眼科領域の倫理学が生死とは異なり、失明に関わる問題が断然多いことなども重要なポイントとして講義する。

眼科学の講義回数は限られるので、上記の要点を概説しながら、エッセンスとなる知識が得られるように配慮したい。

学習目標

一般目標(GIO): 眼部の解剖と眼機能を理解し、主な眼疾患(機能・器質的疾患)の病態生理、診断および治療学を学ぶ

行動目標(SBOs):

- ①眼生理・光学の基礎、および屈折・調節の概念と異常を説明できる
- ②視野、光覚、色覚、瞳孔反応の概念と異常を説明できる
- ③眼科診断に必須の細隙灯顕微鏡検査、検眼鏡検査の要領を説明できる
- ④緊急疾患、感染性疾患の愁訴と病状、治療を説明できる
- ⑤発症頻度の高い眼疾患(緊急性を有する角膜、ぶどう膜、網膜、視神経疾患、および白内障、緑内障、弱視、斜視など)の病態と治療法を説明できる
- ⑥眼部外傷に対する処置の方法を説明できる
- ⑦眼底に異常をきたす主な全身疾患と眼底所見について説明できる

テキスト

現代の眼科学(金原出版)第11版
 Clinical Ophthalmology 5th ed. Jack J. Kanski; Butterworth Heinemann
 (Clinical Ophthalmologyは欧文図書ではあるが、図譜が多く初心者にもわかりやすい、他科においても欠かせない参考書となる場合が多い)
 いずれの図書も、豊富なカラー眼底図譜が掲載されているので、将来も含めて座右の書として一冊は求められたい。

評価方法 平常点、レポート、試験、その他の方法により、総合的に判定される

その他(メッセージ等) 学習上の留意点は、内科学・外科学に準じる。カルテの閲覧方法、病歴聴取、検査法、手術手技など、眼科に固有な項目に重点を置いて学習して欲しい。

授業計画／担当教員等

- 平成24年度 医学部4年生講義予定
- H24.4.5 丸子一郎: 眼科学とは「未来の眼科を見てみよう」
- H24.4.12 石龍鉄樹: 解剖と生理「眼はどのようにして世界を映しているか」
- H24.4.19 梶田雅義: 調節「眼はオートフォーカス」
- H24.4.26 狩野麻里子: 白内障「見る世界を変える眼内レンズ」
- GW
- H24.5.10 森 隆史: 小児眼科「遠視はいい目？」
- H24.5.17 藤原聡之: 網膜血管性病変「眼底検査はプロの技」
- H24.5.24 丸子一郎: 糖尿病網膜症「失明原因僅差で第二位」
- H24.5.31 斎藤昌晃: 加齢黄斑変性・黄斑疾患「黄斑は目の急所」
- H24.6.7 佐柄英人: 緑内障「失明原因第一位」
- H24.6.14 石龍鉄樹: 網膜剥離など「見えない硝子体が引き起こす網膜疾患」
- H24.6.21 金子久俊: 眼感染症「基礎と臨床の融合」
- I期試験(試験は行ないません)
- H24.7.5 斎藤昌晃: ぶどう膜炎「日本の3大ぶどう膜炎はなに？」
- H24.7.12 古田 実: 眼瞼・眼窩疾患「視機能をサポートする組織の疾患」
- H24.7.19 古田 実: 眼腫瘍「眼部3大悪性腫瘍と仮面症候群」
- 夏季休業
- H24.9.13 森 隆史: 救急疾患「これだけは知っておきたい眼科救急」
- H24.9.20 鈴木美佐子: 神経眼科「目からわかる脳の病気」

H24.9.27 古田 歩: 神経眼科 「視覚と脳-目を通して脳の働きをみる」
 H24.10.4 伊藤 健: 角膜/コンタクトレンズ 「あなたのコンタクトは大丈夫？」
 H24.10.11 狩野麻里子: 全身疾患と眼 「眼でこんなことがわかるんだ！」
 H24.10.18 石龍鉄樹: 眼科疾患のまとめ 「実際の問題を解いてみよう」
 II期試験(試験を行います)

担当教員一覧

教員氏名	職	所属
石龍鉄樹	准教授	福島県立医科大学医学部眼科
古田 実	講師	福島県立医科大学医学部眼科
斎藤昌晃	講師	福島県立医科大学医学部眼科
丸子一朗	講師	福島県立医科大学医学部眼科
森 隆史	助教	福島県立医科大学医学部眼科
板垣可奈子	助手	福島県立医科大学医学部眼科
狩野麻里子	助手	福島県立医科大学医学部眼科
新澤 恵	助手	福島県立医科大学医学部眼科
伊勢重之	助手	福島県立医科大学医学部眼科
大口泰治	助教	福島県立医科大学医学部眼科
野地裕樹	助手	福島県立医科大学医学部眼科

菊池重幸	臨床教授	保原中央クリニック
鈴木勝浩	臨床教授	大原綜合病院
神田尚孝	臨床准教授	寿泉堂綜合病院
鈴木美佐子	非常勤講師	済生会福島綜合病院
梶田雅義	非常勤講師	梶田眼科
藤原聡之	非常勤講師	秋田大学医学部眼科
伊藤 健	非常勤講師	伊藤眼科
佐柄英人	非常勤講師	マルイ眼科
金子久俊	非常勤講師	ほばら眼科
古田 歩	非常勤講師	前田眼科
橋本禎子	客員講師	桜水さかい眼科
荒木 聡	客員講師	白河厚生綜合病院
平井香織	客員講師	星綜合病院
山田文子	客員講師	保原中央クリニック
小島 彰	客員講師	太田西ノ内病院

科目・コース(ユニット)名	頭頸部・口腔【医学4】						
(英語名称)							
担当責任者	大森 孝一 長谷川 博						
開講年次	4年	開講学期	1・2期	必修／選択	必修	授業形態	講義

概要／方針等

「耳鼻咽喉科・頭頸部外科学」とは、その成立過程を歴史的に見ると、19世紀末から今世紀のはじめにかけて、外科学から分かれた耳科学と、内科学から分かれた鼻科学および咽喉科学がそれぞれ専門分化し、合併することによって成立した学問であり、外科的な面と内科的な面を有している。その取り扱い領域は聴覚、平衡覚、嗅覚、視覚、味覚、咀嚼、構音、発声、嚥下など、日常生活に重要な機能を有しているのみならず、顔面、頭部など整容的にも重要な部位を占めている。すなわち現在の耳鼻咽喉科・頭頸部外科学は、固有の耳科学、鼻科学、咽喉科学を中心にして、オージオロジー(聴覚学)、神経耳科学、気管食道科学、音声言語医学、頭頸部腫瘍学、形成外科学、アレルギー学などと関連をもちつつ発展している。勿論、この広範な領域の全般についてふれることは、時間の制約もあって不可能である。この現状を踏まえながら重点的に授業を行っていく。

〈歯科口腔外科学分野〉

口腔外科は口腔を構成する、また口腔に関連する組織・器官の各種疾患のうち、主として観血的手術療法の対象となるものの診断と治療を行う臨床科である。歯科口腔外科の講義では、医学部学生に必要な顎口腔・歯ならびに隣接組織に現れる疾患について、その原因から、診断、治療法について理解して頂く。

学習目標

《耳科学》

一般目標 外耳、中耳、内耳の生理と解剖を理解し、主な疾患の原因、病態生理、症候の把握に基づく診断と治療を学ぶ。

行動目標 ① 外耳、中耳、内耳の解剖と機能を理解し説明できる。

② 外耳、中耳、内耳の主な疾患、病態生理、症候と診断について説明できる。

③ 外耳、中耳、内耳の主な疾患の治療法について説明できる。

《鼻科学》

一般目標 鼻、副鼻腔の生理と解剖を理解し、主な疾患の原因、病態生理、症候の把握に基づく診断と治療法を学ぶ。

行動目標 ① 鼻、副鼻腔の解剖と機能を理解し説明できる。

② 鼻、副鼻腔の主な疾患、病態生理、症候と診断について説明できる。

③ 鼻、副鼻腔の主な疾患の治療法について説明できる。

《口腔科学》

一般目標 口腔咽頭の生理と解剖を理解し、主な疾患の原因、病態生理、症候の把握に基づく診断と治療法を学ぶ。

行動目標 ① 口腔咽頭の解剖と機能を理解し説明できる。

② 口腔咽頭の主な疾患、病態生理、症候と診断について説明できる。

③ 口腔咽頭の主な疾患の治療法について説明できる。

《咽喉科学・喉頭科学、気管食道科学、頭頸部外科学》

一般目標 咽喉頭の生理と解剖を理解し、主な疾患の原因、病態生理、症候の把握に基づく診断と治療を学ぶ。

行動目標 ① 咽頭、喉頭の解剖と機能を理解し説明できる。

② 咽頭、喉頭の主な疾患、病態生理、症候と診断について説明できる。

③ 咽頭、喉頭の主な疾患の治療法について説明できる。

④ 内視鏡による気管、食道の検査法について説明できる。

⑤ 頭頸部外科で取り扱う主な疾患の診断、治療法について説明できる。

《音声言語医学》

一般目標 音声言語医学で取り扱う病態について理解を深める。

行動目標 音声障害、言語障害を来す疾患についての原因、病態生理、症候、診断、治療法について説明できる。

〈歯科口腔外科学分野〉

一般目標 顎口腔・歯ならびに隣接組織に現れる先天性および後天性疾患について、その原因、病態生理と症状、診断と治療法を理解する。

行動目標 ① 顎口腔、歯牙の解剖、生理、必要な検査法を理解し、説明できる。

② 主に、以下の疾患についての病態生理と症状、診断、治療法が説明できる。

a. う蝕、歯肉炎、辺縁性歯周炎

b. 歯原性炎症、特異性炎、嚢胞性疾患

c. 外傷、奇形、顎変形症

d. 口腔粘膜疾患、腫瘍

e. 顎関節疾患など

テキスト	特になし。随時プリントを配布
参考書	<p>新耳鼻咽喉科学 切替一郎原著 野村恭也編著 南山堂 税込 ¥16,800</p> <p>イラスト耳鼻咽喉科 森満 保著 光文堂 税込 ¥5,145</p> <p>MINOR TEXTBOOK 耳鼻咽喉科学 久保 武他著 金芳堂 税込 ¥4,200</p> <p>NEW 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 喜多村 健、森山 寛編集 南江堂 税込 ¥6,615</p> <p>医学を学ぶ人の歯科口腔外科テキスト 都 温彦他編 医学情報社 税込 ¥6,180</p> <p>口腔外科学 宮崎 正編 医歯薬 税込 ¥19,950</p> <p>口腔外科・病理診断アトラス 石川達也監修 医歯薬 税込 ¥14,600</p> <p>口腔病変診断アトラス 伊藤秀夫他編 医歯薬 税込 ¥36,750</p>
評価方法	<p>(1) 4年次後期：講義内容について客観的試験</p> <p>(2) 講義における出席不良者には、4年次後期試験の受験資格を与えないことがある。</p> <p>(3) 評価は出席日数、聴講態度、レポート、試験その他の方法により総合的に判定される。</p>
その他(メッセージ等)	真面目な勉学態度・積極的な取り組みを希望する。

授業計画／担当教員等	
<p>1回：4月11日(水)Ⅱ／総論 耳鼻咽喉科学総論取り扱う領域と疾患／担当：大森孝一</p> <p>2回：4月18日(水)Ⅱ／口腔科学 解剖と生理、疾患／担当：松塚崇</p> <p>3回：4月25日(水)Ⅱ／咽頭科学 解剖と生理、疾患／担当：松塚崇</p> <p>4回：5月2日(水)Ⅱ／気管食道科学 解剖と生理、疾患／担当：横山秀二</p> <p>5回：5月9日(水)Ⅱ／耳科学 総論／担当：松井隆道</p> <p>6回：5月16日(水)Ⅱ／耳科学 内耳・聴覚・平衡／担当：野本幸男</p> <p>7回：5月23日(水)Ⅱ／耳科学 外耳、中耳、顔面神経／担当：小川洋</p> <p>8回：5月30日(水)Ⅱ／頭頸部外科学 解剖と生理、疾患／担当：鈴木政博</p> <p>9回：6月6日(水)Ⅱ／鼻科学 総論／担当：野本美香</p> <p>10回：6月13日(水)Ⅱ／鼻科学 各種疾患その1／担当：多田靖宏</p> <p>11回：6月20日(水)Ⅱ／鼻科学 各種疾患その2／担当：多田靖宏</p> <p>12回：7月3日(火)Ⅳ／頭頸部外科学 疾患、治療方法／担当：鈴木政博</p> <p>13回：7月10日(火)Ⅳ／喉頭科学 解剖と生理、疾患／担当：大森孝一</p> <p>14回：7月17日(火)Ⅳ／総論 耳鼻咽喉科領域における再生医学研究／担当：大森孝一</p> <p>15回：7月24日(火)Ⅳ／頭頸部病理学 頭頸部領域の扁平上皮癌／担当：鈴木理</p> <p>16回：10月2日(火)Ⅳ／頭頸部病理学 頭頸部領域の唾液腺疾患／担当：鈴木理</p> <p>17回：10月9日(火)Ⅳ／総論 口腔外科総論／担当：長谷川博</p> <p>18回：10月16日(火)Ⅳ／各論 解剖、口腔領域での検査法、各疾患1／担当：佐久間和子</p> <p>19回：10月23日(火)Ⅳ／各論 各疾患2／担当：菅野寿</p> <p>20回：10月30日(火)Ⅳ／各論 各疾患3／担当：菅野寿</p>	
<p>大森 孝一 教授 耳鼻咽喉科学講座</p> <p>小川 洋 教授 会津医療センター準備室</p> <p>松塚 崇 講師 耳鼻咽喉科学講座</p> <p>多田 靖宏 講師 耳鼻咽喉科学講座</p> <p>横山 秀二 講師 耳鼻咽喉科学講座</p> <p>松井 隆道 講師 耳鼻咽喉科学講座</p> <p>野本 幸男 助教 耳鼻咽喉科学講座</p> <p>鈴木 政博 助手 耳鼻咽喉科学講座</p> <p>野本 美香 助手 医療人育成・支援センター</p>	
<p>鈴木 理 講師 病理病態診断学講座</p>	
<p>長谷川 博 准教授 歯科口腔外科</p> <p>菅野 寿 助教 歯科口腔外科</p> <p>佐久間知子 助教 歯科口腔外科</p>	

科目・コース(ユニット)名	精神【医学4】						
(英語名称)							
担当責任者	矢部博興						
開講年次	4年	開講学期	1・2期	必修／選択	必修	授業形態	講義

概要／方針等							
<p>第1回 精神科診断法</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) これから行われる神経精神医学の講義全体の予定を知りイメージを持つ。 (2) 教科書を知る。 (3) 神経精神医学が対象とする疾患や障害にはどんなものがあるかを知る。 (4) 精神疾患の診察と診断の進め方の概要を知る。 (5) 異常な精神現象としての精神症状にはどのようなものがあるかを知る。 <p>第2回 精神症状学 I</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 知覚の領域の異常 (2) 思考の異常 (3) 記憶の異常 (4) 知能の異常 (5) 自我意識の異常 <p>第3回 精神症状学 II</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 感情の異常 (2) 欲動の異常 (3) 意識の異常 (4) 性格 (5) 状態像診断 <p>第4回 うつ病</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 気分障害には単極性うつ病、双極性気分障害(躁うつ病)とがあること、それらの臨床症状、病因症状、病因仮説、治療法について理解する。 (2) 気分障害について勉強することを通して、うつ病や躁病が疾患であって、単に気分が沈んでいるとか、気分がよいといった一般に誰にでも認められる日常的な気分の変化ということとは異なることを理解する。 (3) ことにうつ病は医師であれば何科の医師であっても遭遇する可能性が高い疾患であるので、うつ病の診断と治療の粗筋はしっかりと勉強する。 その際に留意すべき点は、精神療法的に患者とどう接すれば良いか、患者にどう話せば良いかを知っておく。 <p>第5回 神経症性障害</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 神経症性障害とは何か、精神病とはどのように違うのか。 (2) 神経症性障害にはどのようなものがあるか、その分類体系を知る。 (3) 神経症性障害はどのような原因によって発症するかを知る。 (4) 神経症性障害の治療方法について知る。 (5) 小児期の精神障害の治療について知る。 <p>第6回 パニック障害と社会不安障害</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) パニック障害とはどういう疾患か (2) パニック障害について (3) 社会不安障害とはどういう疾患か (4) 社会不安障害の治療について <p>第7回 心身症</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 心身症の定義と具体例 (2) 心身症の診断 (3) 心身医学的な治療法 <p>第8回 自殺予防</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 日本における自殺の現状 							

- (2) G8諸国における自殺死亡率
- (3) 福島県における自殺の現状
- (4) 自殺未遂繰り返し症例の背景にある人格の病理
- (5) 頻回に救急外来を受診した境界性人格障害の症例
- (6) 境界性人格障害の治療

第9回 リエゾン精神医学

- (1) リエゾン精神医学の正確な概念を知る。
- (2) 具体的な症例を通じて、リエゾン精神医学の実際を把握する。
- (3) リエゾン精神医学で特に必要な精神医学的知識を体系的に理解する。

第10回 統合失調症

- (1) 統合失調症は代表的な内因性精神病であること。そもそも精神病の定義は何かを再確認すること。
- (2) 統合失調症の臨床症状、病因仮説、治療法について理解する。統合失調症について勉強することを通して、統合失調症が疾患であって個人の持つ独特な世界観であるとか個人の独特な生き方であるとかとは異なることを理解する。
- (3) 抗精神病薬の作用機序についてある程度理解し、抗精神病薬とは精神病に対して非特異的にしか作用しない漠然とした「鎮静剤」とか「睡眠剤」とかではないことを理解する。

第11回 小児精神医学

- (1) 正常(健康)な小児の心性と発達障害について知る。
- (2) 小児の診察のすすめ方のポイントを知る。
- (3) 小児期の精神障害にはどのようなものがあるかについて知る。
- (4) 小児期の精神障害はどのような原因によってなるのかを知る。
- (5) 小児期の精神障害の治療方法について知る。

第12回 アルコール・薬物依存

- (1) 依存物質の特徴を知る。
- (2) 依存形成のメカニズムを理解する。
- (3) 依存、離脱に伴って出現する精神症状について知る。

第13回 てんかん

- (1) てんかんの定義
- (2) てんかん発作の分類
- (3) てんかんの型分類
- (4) てんかんの治療のあらまし

第14回 摂食障害

- (1) 摂食障害とは
- (2) 摂食障害の発作要因
- (3) 摂食障害でよくみられる特徴
- (4) 摂食障害の治療: 多面的アプローチを要する。

第15回 脳器質性精神病/症状精神病

- (1) 脳器質性精神病/症状精神病の概念
- (2) 脳器質性精神病/症状精神病の発作形式と経過の共通性
- (3) 脳器質性精神病/症状精神病を起こしやすい基礎疾患
- (4) 各々の基礎疾患に続く精神症状の特徴

第16回 思春期精神医学+精神療法

- (1) 思春期における心身の変化の概要を知る。
- (2) 思春期によくみられる精神疾患・障害の概要を知る。
- (3) それらの疾患において、思春期の発達上の変化がどのように影響しているかを知る。
- (4) それらの疾患において、思春期心性がどのように反映しているかを知る。
- (5) 思春期・青年期によくみられる精神疾患・障害について理解する。

第17回 老年期認知症

- (1) 老化の概念と老年期の位置づけ
- (2) 老化に伴う脳神経系の変化
- (3) 老年期精神障害発症の特徴
- (4) 認知症とその分類

(5) 介護と老人福祉の社会資源

第18回 睡眠・覚醒障害

- (1) 睡眠障害の評価法を知る。
- (2) 不眠をきたす代表的な疾患について知る。
- (3) 代表的な睡眠障害について知る。
- (4) 睡眠障害の治療法について知る。

第19回 精神科薬物療法

- (1) 向精神薬とは
- (2) 抗不安薬
- (3) 睡眠導入剤
- (4) 抗うつ薬・気分安定薬
- (5) 抗精神病薬
- (6) 抗てんかん薬
- (7) その他

第20回 精神療法/心理・社会的療法

- (1) 心理社会療法とは
- (2) 精神科リハビリテーション
- (3) 生活技能訓練
- (4) その他

学習目標

テキスト

参考書

評価方法

ペーパーテストおよび出席状況を含め総合的に評価する。

その他(メッセージ等)

授業計画/担当教員等

平成24年度講義予定

水曜日 8:40~10:10

- 第1回 4月11日 精神科診断法
- 第2回 4月18日 精神症状学Ⅰ
- 第3回 4月25日 精神症状学Ⅱ
- 第4回 5月2日 うつ病
- 第5回 5月9日 神経症性障害
- 第6回 5月16日 パニック障害と社会不安障害
- 第7回 5月23日 心身症
- 第8回 5月30日 自殺予防
- 第9回 6月6日 リエゾン精神医学
- 第10回 6月13日 統合失調症
- 第11回 6月20日 小児精神医学
- 第12回 7月4日 アルコール・薬物依存
- 第13回 7月11日 てんかん
- 第14回 7月18日 摂食障害
- 第15回 9月12日 脳器質性精神病 / 症状精神病
- 第16回 9月19日 思春期精神医学
- 第17回 9月26日 老年期認知症
- 第18回 10月3日 睡眠・覚醒障害
- 第19回 10月10日 精神科薬物療法
- 第20回 10月17日 精神療法 / 心理・社会的療法

科目・コース(ユニット)名	放射線・画像【医学4】						
(英語名称)							
担当責任者	穴戸 文男						
開講年次	4年	開講学期	1・2期	必修／選択	必修	授業形態	講義

概要／方針等

放射線医学は特定の疾患・臓器を対象とする医学ではなく、放射線や放射性物質を利用するというひとつの方法論で多くの疾患の診断治療を考える分野であるため、幅広い医学全般の知識が要求される。しかし、講義室での授業において各論まで含めて、すべてを講義するのは困難であり、基本的な内容が中心となる。第4学年の講義では、進歩に対応できる基本的な知識や考え方を整理して習得し、臨床実習(BSL)に活用できるような講義としたい。

学習目標

一般目標

臨床実習にて積極的に診療に参加することが可能なレベルの放射線医学の基本的な知識を身につける。また、医療スタッフとともに、画像診断、放射線治療、などの診療行為に参加するために必要な知識、態度、技能、について学習する。

行動目標

- 1 放射線の発生および発生装置の原理を説明できる。
- 2 単純X線撮影と造影X線撮影の原理を理解し、説明できる。
- 3 CT、MRI、核医学診断の原理を理解し、説明できる。
- 4 放射線の人体への影響について理解し、説明できる。
- 5 放射線防護の原理を理解し、臨床現場における被ばく低減法を説明できる。
- 6 造影剤の副作用を理解し、副作用発現時の対策について説明できる。
- 7 放射線治療装置の原理を理解し、説明できる。
- 8 放射線治療の副作用発現の原理を理解し、放射線障害の防止対策を説明できる。
- 9 放射線治療と画像診断の関係を理解し、説明できる。
- 10 RI利用の基礎的知識、取扱、防護、を理解し、説明できる。
- 11 放射性医薬品の測定装置について理解し、説明できる。
- 12 肺・呼吸器の画像診断法の原理、適応、を理解し、代表的な疾患の画像診断学的な所見を列記し、説明できる。
- 13 消化器の画像診断法の原理、適応、を理解し、代表的な疾患の画像診断学的な所見を列記し、説明できる。
- 14 Interventional Radiologyの原理、特徴、を理解し、適応、手技、副作用を説明できる。
- 15 脳神経系の画像診断法の原理、適応、を理解し、代表的な疾患の画像診断学的な所見を列記し、説明できる。
- 16 放射線治療法の手技を理解し、方法、適応を説明できる。
- 17 代表的な疾患について(肺癌、食道癌、脳腫瘍、頭頸部腫瘍、子宮癌、乳癌、悪性リンパ腫、など)の放射線治療法の位置づけ、適応を理解し、説明できる。

テキスト

特に、定めない。放射線医学の基本的な考え方については変化していないが、進歩の著しい分野であるため、各論の内容については時代と共に大きく変化してきているので、臨床実習での病棟実習・講義でカバーするつもりである。
尚、自学自習のための参考書として考えられる書籍を下記にあげておく。特に、各論については、できるだけ新しく出版されたものを参考にするのが望ましい。

参考書

- (1)放射線医学全般
標準放射線医学(第7版)西谷・遠藤・松井・伊東 医学書院 2011
- (2)放射線画像診断
Radiology Review Manual, 7th Ed Dahnert, 2011
- (3)核医学
核医学ノート 久保・木下(第5版)金原出版 2009
核医学診断ガイドライン2008 日本核医学会 2008
- (4)放射線治療
癌放射線治療ハンドブック 中川、山下 中外医学社 2011
- (5)放射線健康影響
原子力災害に学ぶ 放射線の健康影響とその対策 長瀬重信 丸善出版
緊急被ばく医療テキスト 医療科学社
放射線基礎医学 第11版 金芳堂

評価方法	2012年10月31日～11月12日の試験期間に記述式の試験を行う。2013年3月中旬までに5年生への進級の判定を行う。 授業の評価は(平常点、レポート、試験その他の方法により)総合的に判定される。
その他(メッセージ等)	

授業計画/担当教員等							
授業計画							
回数	月	日	曜日	時限	項目	内容(キーワード等)	担当者
1	4	5	木	I	(1)放射線医学総論	1)放射線と医学の関係 2)放射線医学に必要な物理学、生物学 ③造影剤と医療被ばく	穴戸 文男
2	4	12	木	I	(2)放射線生命科学	1)低線量被ばく	坂井 晃
3	4	19	木	I	(3)放射線健康管理学-1	1)緊急被ばく医療	大津留 晶
4	5	26	木	I	(3)放射線健康管理学-2	2)放射線リスクコミュニケーション	大津留 晶
5	5	10	木	I	(4)放射線画像診断学-1	1)脳神経系画像診断	穴戸 文男
6	5	17	木	I	(4)放射線画像診断学-2	2)肺・呼吸器画像診断	森谷 浩史
7	5	24	木	I	(4)放射線画像診断学-3	3)消化器画像診断	橋本 直人
8	5	31	木	I	(4)放射線画像診断学-4	4)腹部画像診断	長谷川 靖
9	6	7	木	I	(4)放射線画像診断学-5	5)救急における画像診断	嶋原 武志
10	6	14	木	I	(5)放射線治療学-1	1)放射線治療:食道癌、悪性リンパ腫	佐藤 久志
11	6	21	木	I	(5)放射線治療学-2	2)放射線治療:頭頸部腫瘍、脳腫瘍	佐藤 久志
12	7	5	木	I	(5)放射線治療学-3	3)放射線治療:乳癌、子宮癌	湯川 亜美
13	7	12	木	I	(5)放射線治療学-4	4)放射線治療:IGRT、IMRT、早期肺癌、前立腺癌	高井 良尋
14	7	19	木	I	(6)Interventional Radiology (IVR)-1	②IVRの実際	穴戸 文男
15	7	26	木	I	(6)Interventional Radiology (IVR)-2	②IVRの実際	今井 茂樹
16	9	13	木	I	(6)Interventional Radiology (IVR)-3	③CTガイド下針生検	本荘 浩
17	9	20	木	I	(8)核医学診断学-1	1)RI利用の基礎的知識 2)放射性医薬品と測定装置 3)核医学画像診断-1 (FDG-PET)	穴戸 文男
18	9	27	木	I	(8)核医学診断学-2	2)核医学画像診断-2 (骨、内分泌、など)	石井 士朗
19	10	4	木	I	(8)核医学診断学-3	3)核医学画像診断-3 (脳、心筋)	穴戸 文男
担当教員一覧 4年生:放射線・画像							
教員氏名 職 所属 備考							
穴戸 文男 教授 放射線医学講座							
坂井 晃 教授 放射線生命科学講座							
大津留 晶 教授 放射線健康管理学講座							
森谷 浩史 客員講師 大原医療センター 臨床教授							
橋本 直人 講師 放射線医学講座							
長谷川 靖 助手 放射線医学講座							
嶋原 武志 助手 放射線医学講座							
佐藤 久志 助教 放射線医学講座							
湯川 亜美 助手 放射線医学講座							
高井 良尋 教授 弘前大学医学部							
今井 茂樹 客員講師 総合南東北病院							
本荘 浩 客員講師 白河厚生総合病院 臨床准教授							
石井 士朗 助手 放射線医学講座							

科目・コース(ユニット)名	麻酔・救急【医学4】						
(英語名称)	Anesthesiology Emergency and Critical Care Medicine						
担当責任者	村川雅洋 田勢長一郎						
開講年次	4年	開講学期	2期	必修／選択	必修	授業形態	講義

概要／方針等

<麻酔科学>

麻酔科学は、麻酔、集中治療(救急医療)、ペインクリニック、ならびに緩和医療など幅広い知識と技術が要求される広範囲の診療分野を扱う。したがって、上記の一見かけ離れた診療分野の疾病に共通する臓器・組織機能の恒常性の破綻と疼痛の病態生理を理解し、その上でこれらに対処する手法を学ぶ。

<救急医学分野>

救急医療は基本的な医療の一つであり。救急患者に遭遇した場合、すべての医師にとって、的確な対応が要求される。その範囲は多岐にわたり、また、各診療科と重複する部分も多い。救急医学の講義では生態に侵襲が加わった場合の対応を理解し、呼吸・循環障害並びに外傷、中毒、熱傷などを学ぶ。また、これらの疾患に対し迅速な診断・治療方針のほか初期治療の重要性を理解させる。

学習目標

<麻酔科学>

一般目標

手術侵襲や各種の痛み疾患ならびに急性臓器機能不全に対応できる知識および技能を身につけるため、麻酔科学・集中治療医学の基本を理解する。

行動目標

1. 全身麻酔法および麻酔器の構造について基本的な説明ができる。
2. 吸入麻酔薬の薬理作用について基本的な説明ができる。
3. 静脈麻酔薬の薬理作用について基本的な説明ができる。
4. 筋弛緩薬の薬理作用について基本的な説明ができる。
5. 麻薬、鎮痛薬の薬理作用について基本的な説明ができる。
6. 局所麻酔薬の薬理作用について基本的な説明ができる。
7. 各種神経ブロック法、硬膜外麻酔法、脊髄くも膜下麻酔法について基本的な説明ができる。
8. 各種痛み疾患および術後痛の発生機序と鎮痛法について基本的な説明ができる。
9. 麻酔・手術に伴う生理的変化(神経、呼吸、循環、内分泌、代謝、体液など)について基本的な説明ができる。
10. 呼吸器、循環器、内分泌・代謝疾患、神経筋疾患などの患者の麻酔・集中治療について基本的な説明ができる。
11. 小児および妊産婦の麻酔について基本的な説明ができる。

<救急概論・重症救急疾患>

一般目標

- 1 救急疾患の特殊性及び災害医療について学ぶ
- 2 心停止時の診断および蘇生法をEBMに基づいて学ぶ
- 3 呼吸不全、循環不全、意識障害の病態、診断、治療を学ぶ

行動目標

- 1 各主訴より緊急度、重症度を説明できる。
- 2 心電図上Vf、PEA、Asystoleの診断ができる。
- 3 PEA、Asystoleの原因疾患を説明できる。
- 4 PEA、Asystoleに対し適切な治療を説明できる。
- 5 Vfに対し除細動を始めEBMに基づいた治療を説明できる。
- 6 呼吸不全の病態、診断、治療法を説明できる。
- 7 人工呼吸法について説明できる。
- 8 循環不全について病態、診断、治療法を説明できる。
- 9 意識障害をきたす疾患、診断、治療法の概略を説明できる。

<生態侵襲学>

一般目標

- 1 外傷、熱傷、電撃症時の病態、診断、治療を学ぶ。
- 2 中毒、熱中傷、低体温、溺水の病態、診断、治療を学ぶ。

<p>3 特殊感染症の病態、診断、治療を学ぶ。 4 心肺蘇生法を実習する。 行動目標 1 外傷、熱傷、電撃症について病態、診断、治療法を説明できる。 2 中毒、熱中症、低体温、溺水などについて病態、診断、治療法を説明できる。 3 破傷風、ガス壊疽、炭疽などについて病態、診断、治療法を説明できる。 4 Basic Life Support (BSL)とAdvanced Cardiac Life Support (ACLS)を説明できる。 5 Vtの診断およびダミーに対し除細動を適切に行える、 6 外傷の標準的診療を説明できる。</p>	
テキスト	特に指定しない
参考書	<p><麻酔科学> 1. 「Basics of Anesthesia, 5th ed」(2006) eds. Stoelting RA, Miller RD. Churchill Livingstone. 2. 「標準麻酔科学」第5版(2006) 弓削孟文、古家仁編、医学書院 3. 「集中治療医学」(2001) 日本集中治療医学会編、秀潤社</p> <p><救急医学> 1 日本救急医学会監修 標準救急医学 医学書院 2 改訂外傷初期診療ガイドライン へるす出版 3 AHA心肺蘇生と救急新血管治療のためのガイドライン2010 4 Schwartz GR:Emergency Medicine 4th Edition.Williams & Wilkns 5 Irwin RS.et al:Intensive Care Mwdicine .4th Edition .Lippincott-Ravan</p>
評価方法	<p><麻酔科学> 筆記試験により総合的に評価される。 <救急医学> 授業の出席、第4学年後期末の筆記試験等により総合的に判定される</p>
その他(メッセージ等)	<p>1.講義では重点的なことを取り上げ、不足分は自学・自習を原則とする 2.学習者が主体的な思考に基づき知識・技術を習得することを原則とする。</p>

<p>授業計画/担当教員等</p> <p><麻酔科学> 1回・7月4日(水)3時限/全身麻酔薬の臨床薬理/村川 雅洋 2回・7月5日(木)3時限/静脈麻酔薬/小原 伸樹 3回・7月11日(水)3時限/麻酔器と気道確保/村川 雅洋 4回・7月12日(木)3時限/吸入麻酔薬/村川 雅洋 5回・7月18日(水)3時限/筋弛緩薬/村川 雅洋 6回・7月25日(水)3時限/麻薬・鎮痛薬/五十洲 剛 7回・9月12日(水)3時限/局所麻酔薬・神経ブロック/中川 雅之 8回・9月19日(水)3時限/硬膜外・脊髄くも膜下麻酔/五十洲 剛 9回・9月26日(水)3時限/ペインクリニック/中川 雅之 10回・10月3日(水)3時限/小児麻酔/村川 雅洋 11回・10月10日(水)3時限/集中治療医学概論/小原 伸樹 12回・10月10日(水)4時限/心臓外科の麻酔・麻酔と循環/小原 伸樹 13回・10月17日(水)4時限/内分泌疾患・肝切除・腹腔鏡手術の麻酔/村川 雅洋 14回・10月24日(水)4時限/呼吸器・脳神経外科の麻酔/五十洲 剛</p> <p><救急医療学> 1回・7月4日(水)2時限/救急医療システム/田勢長一郎 2回・7月11日(水)2時限/救急蘇生法/田勢長一郎 3回・7月18日(水)2時限/救急疾患の診察鑑別/池上之浩 4回・7月25日(水)2時限/呼吸不全/塚田泰彦 5回・9月12日(水)2時限/循環不全、ショック/根本千秋 6回・9月19日(水)2時限/意識障害/池上之浩 7回・9月26日(水)2時限/中毒/島田二郎 8回・10月3日(水)2時限/災害医療/島田二郎 9回・10月10日(水)2時限/外傷/長谷川有史 10回・10月17日(水)2時限/熱症、電撃症/池上之浩 11回・10月17日(水)3時限/熱中症、溺水、低体温/塚田泰彦 12回・10月24日(水)2時限/重症・特殊感染症(破傷風、ガス壊疽、炭疽菌ほか)/長谷川有史 13回・10月24日(水)3時限/救急医療の標準化、まとめ/田勢長一郎</p>
--

科目・コース(ユニット)名	感染・検査【医学4】						
(英語名称)							
担当責任者	教授 金光敬二						
開講年次	4年	開講学期	2期	必修/選択	必修	授業形態	講義

概要/方針等	
【テーマ】 1) 検査総論 2) 尿検査 3) 血液 4) 生化学 5) 免疫血清 6) 微生物 7) 生理 8) 遺伝子診断 9) 感染制御	
学習目標	
テキスト	
参考書	
評価方法	
その他(メッセージ等)	

授業計画/担当教員等

科目・コース(ユニット)名	臨床薬理学【医学4】						
(英語名称)	Clinical pharmacology						
担当責任者	白坂 正良						
開講年次	4年	開講学期	2期	必修/選択	必修	授業形態	講義

概要/方針等

薬物治療は疾患治療の大きな柱である。近年、科学の発展に伴い、顕著な薬効を示す薬や、新しい作用機序をもつ特徴のある薬が次々に開発され、多くの疾患ならびに治療困難であった疾患も治療可能になってきている。それに伴い有害作用(副作用)も起こりやすくなっており、また人口の高齢化により、複数疾患を有する患者が増加し、多剤併用による相互作用の発生頻度も高くなっている。医薬品の選択や、投与量、投与方法の決定など、従来医師の経験や勘に頼っていた「さじ加減」では対応困難となってきている。一方、リスクマネジメントの観点からみると、医薬品が関連する医療事故が非常に高い割合を占めてきている。

以上のことより、医薬品適正使用の実践には、まず1つめに処方ルールの基本を理解し、正確に処方せんを発行できることが必要となる。2つめに、科学的な薬効評価によって薬の適応を決定し、疾患に基づく薬物体内動態の変化に対応した投与設計を行い、安全でかつ有効な処方を選択することが必要となる。具体的には、医薬品情報(特に医薬品添付文書)の入手方法、剤形と薬物動態関係、副作用、相互作用、血中濃度のモニタリング等を理解し、処方発行の際、必要となる基本的な知識を習得することが求められる。またがんが国民の疾病による死亡の最大原因となっている現状および「がん対策基本法」の施行を考慮し、特に重要と考えられる「抗がん剤」使用時の留意点ならびに静脈栄養法及び経腸栄養法を主とした臨床栄養に使用する医薬品についても学ぶ。さらに社会問題化している「薬物乱用」についても取り上げる。

学習目標

一般目標(GIO)

処方せんを正しく発行できるための基礎知識を習得する。

行動目標(SBO)

- 1) 剤形(投与方法)を列挙し、その薬物動態を説明できる。
- 2) 処方せんのルールを理解し、正しい処方せんを作成できる。
- 3) 副作用(有害事象)を分類し、副作用報告をどのように行うのか説明できる。
- 4) 相互作用を分類できる。
- 5) 処方時参考とする基本的な医薬品情報の収集ができる。
- 6) 癌患者へ用いる抗がん剤の使用時の留意点を説明できる。
- 7) 静脈・経腸栄養剤の使用時の留意点を説明できる。

テキスト 特に指定しない。各回、関連する資料を配付する。

参考書

- ・研修医・医学生のためのくすりマニュアルー安全な薬物療法のためにー 伊賀立二編 南江堂
- ・疾患からみた臨床薬理学 改訂2版 大橋京一、藤村昭夫編集 じほう
- ・臨床薬理学 第2版 日本臨床薬理学会編 医学書院
- ・PMDA(医薬品医療機器総合機構)の医薬品医療機器情報提供ホームページ
【 <http://www.info.pmda.go.jp/> 】

評価方法 授業の評価は、講義後の豆テスト、定期試験、出席日数その他の方法により総合的に評価される。

その他(メッセージ等)

1. 講義ですべての項目をカバーすることは時間の関係上不可能なので、不足分については、参考書等を自学・自習すること。
2. 不明な点はそのままにせず、積極的に質問してよい。

授業計画/担当教員等

1. 授業計画

回数	月日	時限	項目	内容(キーワード)	担当者※
1回	7月3日(火)	3時限	剤形と処方せんの書き方(1)	剤形、薬物動態、処方せん様式	白坂 正良
2回	7月10日(火)	3時限	処方せんの書き方(2)	処方上の留意点、間違いやすい処方	白坂 正良
3回	7月17日(火)	3時限	医薬品情報・薬物乱用	医薬品情報、添付文書、PMDA、 医薬品インタビューホーム、薬物乱用防止	白坂 正良
4回	7月24日(火)	3時限	副作用・医薬品相互作用・TDM	副作用、重篤度分類、自主報告、	鳥羽 衛

薬物相互作用、抗菌薬TDM

5回 10月16日(火)3時限	抗がん剤使用時の留意点	抗がん剤、レジメン、曝露、安全使用	白坂 正良
6回 10月23日(火)3時限	静脈・経腸栄養剤使用時の留意点	静脈・経腸栄養剤、NST、IVH	白坂 正良
7回 10月30日(火)3時限	医薬品開発と治験について	治験、IRB、CRC、医師主導治験	鳥羽 衛

※担当者が急用により不在の場合は、交代する場合がある。

2. 担当教員一覧

教員氏名	職	所 属	備 考
白坂 正良	講師	公立大学法人福島県立医科大学附属病院薬剤部	薬剤部長
鳥羽 衛	助手	公立大学法人福島県立医科大学附属病院薬剤部	専門薬剤技師

科目・コース(ユニット)名	性差医療【医学4】						
(英語名称)	Gender-specific medicine						
担当責任者	小宮ひろみ						
開講年次	4年	開講学期	2期	必修/選択	必修	授業形態	講義

概要/方針等	
<p>性差医療の目的は性差・ライフステージを考慮したきめ細やかな医療の提供である。これまでの医療は生殖器以外の性差についてあまり注目されることはなかった。また、男性に比較し、女性の医学的データが十分ではなく、米国では1980年代から女性特有の病態を解明することがなされてきている。本講義は性差医療の概念・背景と生殖器以外の性差のある疾患また女性特有の病態に焦点をあて行う。また、どのような医学分野でも性差を意識した医療を展開することの重要性を講義する。さらに日本の性差医療のもうひとつの特徴としてNarrative based medicine(傾聴・共感の態度)がある。現在の医療現場を鑑み、その必要性を学生とともに考える。性差医療では漢方療法が頻用されており、その有用性についても講義する。</p>	
学習目標	
<p>一般目標 性差医療を理解するため性差について「生物学的性」と「社会的性」を理解し、かつ性差医療が発展してきた歴史・背景・概念を学習する。そのうえで、性差のある疾患について学習し、性差医療がめざすEvidence based medicine(EBM)とNarrative based medicine (NBM)を身につける。さらに性差医療で有用な漢方療法についても学習する。</p> <p>行動目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 性差について染色体、遺伝子、ホルモン、ジェンダーに関してそれぞれの特徴をのべることができる。 2 性差医療の概念と歴史・背景を言えること。 3 性差のある代表的疾患として心疾患、メンタルヘルス、更年期障害、骨粗鬆症につきその特徴を述べる言えること。 4 ジェンダーの視点から性差医療を考えることができる。 5 性差医療の重要な側面であるNBMを実践できるようになること。また漢方療法の有用性を理解する。 	
テキスト	
参考書	<p>Principles of gender-specific medicine, Marianne J Legato, Elsevier academic press, USA 性差医学入門 女と男のよりよい健康のために 監修 貴邑富久子 (じほう) (Exploring the biological contributions to human health does sex matter?) Theresa M, Wize mann and Mary-Lou Pardue, National Academy of Sciences) 性差医療 性差研究が医療を変える 編集 天野恵子 (真興交易出版部)</p>
評価方法	授業の評価は平常点、レポートおよび第4学年2期末に実施する筆記試験、その他の方法により総合的に判定される。
その他(メッセージ等)	

授業計画/担当教員等	
1回目	10月19日(金) I 性差医療 性差と性差医療の概念・歴史・背景 小宮ひろみ
2回目	10月19日(金) II 性差医療 性差のある疾患 心疾患と性差 小宮ひろみ
3回目	10月25日(木) I 性差医療 性差のある疾患 更年期障害 骨粗鬆症と性差 小宮ひろみ
4回目	10月25日(木) II 性差医療 性差のある疾患 メンタルヘルスと性差 小宮ひろみ
5回目	10月26日(金) I 性差医療 ジェンダーの視点からみた性差医療 小宮ひろみ
6回目	10月26日(金) II 性差医療 女性外来とNBM 漢方療法 小宮ひろみ

科目・コース(ユニット)名	東洋医学3【医学4】						
(英語名称)	traditional Kampo medicine 3						
担当責任者	三瀨忠道・佐橋佳郎						
開講年次	4年	開講学期	2期	必修／選択	必修	授業形態	講義・実習

概要／方針等	
漢方医学的な理論や診察手技に基づく漢方処方 of 基本的な運用方法と、現代医療における位置づけを知る。	
学習目標	
<p>一般目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 漢方医学的な病態(証)把握方法である四診の基本を理解し、その基本的な手技を覚える。 2. 主要な漢方処方の証(適応病態)と具体的な使用方法を理解する。 3. 病人の証(漢方医学的病態)に応じた漢方処方の運用を理解する 4. 実地臨床における漢方医学の応用とその臨床効果の実際を理解する。 5. 漢方薬の効果や作用の、現代科学的な研究成果について理解する。 <p>行動目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 証の陰陽とその診断方法を概説でき、四診の基本を実行できる。 2. 六病位とそれぞれにおける主な漢方方剤の適応を述べられる。 3. 気血水の異常から診た病態について、それぞれの主要な診察所見を実際に判定できる。 4. 気血水の病態に対応する主な処方と、その各々の適応を判定するための主要所見を説明できる。 5. 使用上注意が必要な主な漢方薬について、その内容と注意点を説明できる。 6. 実地医療における漢方診療の応用例について、例をあげて説明できる。 7. 漢方薬の現代科学的な薬理作用について、例をあげて概説できる。 	
テキスト	『はじめての漢方診療 ノート』 医学書院
参考書	『はじめての漢方診療 十五話』 医学書院 『学生のための漢方医学テキスト』 日本東洋医学会 『漢方210処方 生薬解説』じほう
評価方法	講義への出席、復習テストなどにより総合評価
その他(メッセージ等)	漢方医学の具体的な運用に関する主な基本事項や、現代医学における漢方医学の位置づけを知り、医療人としての漢方医学に対する常識を身に付けていただきたい。

授業計画／担当教員等	
1回目・10月11日(木)3時限	漢方医学の病態把握と主要処方:陰陽・六病位(1) 脈診実技／三瀨忠道・佐橋佳郎
2回目・10月11日(木)4時限	漢方医学の病態把握と主要処方:六病位(2) 舌診実技／三瀨忠道・佐橋佳郎
3回目・10月18日(木)3時限	漢方医学の病態把握と主要処方:気血水の異常(1) 腹診実技／三瀨忠道・佐橋佳郎
4回目・10月18日(木)4時限	漢方医学の病態把握と主要処方:気血水の異常(2) 四診まとめ／三瀨忠道・佐橋佳郎
5回目・10月25日(木)3時限	実地医家における漢方診療応用の実際／安齋圭一
6回目・10月25日(木)4時限	現代科学的に観た漢方薬の薬理作用／石毛 敦

科目・コース(ユニット)名	医療入門1(症候論とケーススタディ・高齢者総合診療)【医学4】						
(英語名称)							
担当責任者	渡辺 毅 大平弘正 石川和信						
開講年次	4年	開講学期	3期	必修/選択	必修	授業形態	講義

概要/方針等

患者さんは様々な自覚症状(symptom)を持って病院を訪れます。また、患者さんの診察時に様々な徴候(sign)が観察されます。これらの症候(自覚症状と徴候)は患者さんの悩みであると同時に、疾患診断の糸口でもあります。このユニットでは、コアカリキュラムに含まれる主要な症候について、発現メカニズム、病態、分類や鑑別を要する疾患、その鑑別の要点、高齢者の診療に重要なポイントなどの基本事項を学びます。さらに、各症候の症例検討(ケーススタディー)を行うことで、重要な症候を出発点とした疾患の診断のプロセスを体験することで論理的アプローチの方法を習得すると同時に、基本的な治療の概要を学習します。

学習目標

一般目標 主な症候・病態の原因・分類とこれら症候を呈する患者の診断と治療の概要を理解する。

行動目標

- 1 各症候の原因と病態生理を説明できる。
- 2 各症候を呈する疾患を列挙し、それらの鑑別の要点を説明できる。
- 3 各症候を呈する患者の鑑別診断プロセスを説明できる。
- 4 高齢者の身体的特徴と疾患を理解する。

テキスト

配布資料

参考書	1. ハリソン内科学 2. 内科学(文光堂) 3. 内科学(朝倉書店)
評価方法	医療入門コースの評価は、「症候論とケーススタディ・高齢者総合診療」「医療と社会」「臨床実習入門」「プライマリケアと地域医療」の4つのユニットの評価に加え、共用試験医学系「CBT」及び「OSCE」の結果を総合して行う。 各ユニットの評価は、講義及び実習への出席状況、毎回の講義の最後の簡単なレポート、期末考査におけるペーパー試験、提出課題等に基づき、総合的に行う。
その他(メッセージ等)	

授業計画/担当教員等

授業計画は、別途周知する。

担当教官

渡辺 毅 教授 腎臓高血圧・糖尿病内分泌代謝内科学講座
大平 弘正 教授 消化器・リウマチ膠原病内科学講座
石川 和信 准教授 医療人育成・支援センター

科目・コース(ユニット)名	医療入門1 (臨床実習入門)【医学4】						
(英語名称)	Introduction to Clinical Medicine ~ Clinical Skills ~						
担当責任者	石川 和信						
開講年次	4年	開講学期	3期	必修/選択	必修	授業形態	実習

概要/方針等	
<p>診療参加型臨床実習の事前教育として、診療の現場で必要とされる臨床能力を広く理解する。シミュレーションやモデル等を最大限、活用して、充実した臨床実習を行うために必要な医学知識・技能・態度を身につける。共用試験OSCEで求められている学習項目を確実に修得することを心がけてほしい。</p>	
学習目標	
<p>一般目標： 診療参加型の臨床実習を行うために、共用試験OSCEで求められている基本的なクリニカル・スキル(臨床技能・態度)を確実に習得する。</p> <p>行動目標： 1 SP実習やロールプレイで適切な医療面接を行うことができる。 2 全身の身体診察(頭頸部、胸部、腹部、四肢、神経系)を系統的に行うことができる。 3 基本的な検査手技を行うことができる。 4 清潔操作を理解し、基本的な外科手技を正しく実施できる。 5 基本的な救急救命の処置ができる。</p>	
テキスト	臨床実習開始前の「共用試験」第8版 社団法人 医療系大学間共用試験実施評価機構(CATO)
参考書	ベイツ診察法 福井次矢、井部俊子 メディカルサイエンスインターナショナル ISBN-13: 978-4895924924
評価方法	<p>この学習ユニットは共用試験OSCEの準備教育として位置づけられる。OSCEを確実に合格できるように授業時間のみならず、スキルラボを活用した自主学習を計画的に行うことが求められる。</p> <p>医療入門コースの評価は、「症候論とケーススタディ」「医療と社会」「臨床実習入門」「プライマリケアと地域医療」の4つのユニットの評価に加え、共用試験医学系「CBT」及び「OSCE」の結果を総合して行う。</p> <p>各ユニットの評価は、講義及び実習への出席状況、毎回の講義の最後の簡単なレポート、期末考査におけるペーパー試験、提出課題等に基づき、総合的に行うこととなる。</p>
その他(メッセージ等)	

授業計画/担当教員等	
<p>【授業計画】 授業計画は、別途周知する。</p> <p>【担当教員】 石川 和信 准教授 医療人育成・支援センター</p>	

科目・コース(ユニット)名	医療入門1 (医療と社会)【医学4】						
(英語名称)							
担当責任者	藤野美津子 佐藤薫						
開講年次	4年	開講学期	3期	必修/選択	必修	授業形態	講義とグループワーク

概要/方針等

医療は人の社会的営みという広い文脈の中に存在すると考えられる。しかし、今日の医療は医療技術の進歩の側面ばかりを追い求めるあまり、患者・家族の社会性や、患者の個人的な‘死’については無視されてきたと考えられる。そのために、患者・家族だけではなく、医療者自身にも様々な問題が生じてきている。日本においても全人的な緩和医療の機運が高まってきているが、「緩和医療」の授業では、医療者の前に一人の‘人’として、死について深く考え、そして医療者として、がん患者の症状コントロールやコミュニケーション技術を学ぶ場としたい。

さらに、医療者には、日々の臨床現場で、あるいは、先端医療の現場で直面する倫理的諸問題に対処することも求められている。「臨床倫理」の授業は、患者および家族の立場を理解したうえで、日々の医療に従事する姿勢を受講生が学ぶことのできる場としたい。

学習目標

<<緩和医療>>

一般目標

①全人的な医療を提供するために、緩和医療の基本的な知識、技術を学ぶとともに、「人」に接する態度を習得する。

行動目標

- ①緩和医療は何かを説明できる。
- ②緩和医療の必要性を説明できる。
- ③包括的がん医療を説明できる。
- ④がん性疼痛の治療の概要について説明できる。
- ⑤悪い知らせを伝えることの重要性とその問題について説明できる。

<<臨床倫理>>

一般目標

- ①臨床倫理の基本的事項を把握することにより、臨床現場で生じる様々な倫理的問題に対処する能力を身につける。
- ②先端医療をめぐる倫理的諸問題について理解することにより、先端医療にかかわる際の態度を身につける。

行動目標

- ①臨床倫理の歴史を説明できる。
- ②臨床倫理検討シートの使い方を説明できる。
- ③患者・家族の立場から、臨床倫理を考えることができる。
- ④チーム医療の重要性について説明できる。
- ⑤先端医療をめぐる倫理的諸問題について説明できる。
- ⑥臓器移植をめぐる倫理的諸問題について説明できる。
- ⑦遺伝子診断・治療、遺伝カウンセリングについて説明できる。
- ⑧治験について説明できる。
- ⑨国および機関内倫理審査制度について説明できる。

テキスト

特に指定しない。

参考書

トワイクロス先生のがん患者の症状マネジメント(医学書院・2003年)3,675円
 がん医療におけるコミュニケーション・スキル 悪い知らせをどう伝えるか(医学書院・2007年)2,940円
 A.R.ジョンセンほか(赤林朗・大井玄監訳)『臨床倫理学 臨床医学における倫理的決定のための実践的アプローチ』新興医学出版社・1997年
 G.E.ベンス(宮坂道夫・長岡成夫訳)『医療倫理 よりよい決定のための事例分析』みすず書房・2000年
 赤林朗編『入門・医療倫理 I』勁草書房・2005年
 樋口範雄編『ケース・スタディ 生命倫理と法』有斐閣・2004年
 『新版増補 生命倫理事典』太陽出版・2010年

評価方法

授業への出席と参画態度により評価する。

その他(メッセージ等)

授業計画/担当教員等

回数	項目	内容	担当者
1	総論	包括的緩和医療 トータルペイン	佐藤 薫
2	症状マネジメントⅠ	がん性疼痛、呼吸困難	佐藤 薫
3	入門	家で家族を看取ること	高橋 まり
4	症状マネジメントⅡ	「死」と向き合う	竹之内 裕文
5	症状マネジメントⅢ	「死」の現在	竹之内 裕文
6	症状マネジメントⅣ	精神腫瘍学	三浦 至
7	症状マネジメントⅥ	在宅緩和ケアの実際	鈴木 雅夫
8	コミュニケーション技術	悪い知らせの伝え方(ロールプレイ)	佐藤 薫

《臨床倫理》

回	開講時間	項目	内容	担当者
1	11月15日3限	臨床倫理の現代史	臨床倫理の基本的概	末永恵子
2	11月15日4限	看護師からみた臨床倫理	チーム医療と臨床倫理	横田素美
3	11月16日3限	吉田富三がん哲学外来	がん患者の心の診療室	樋野興夫
4	11月16日4限	臨床倫理を考える①	ケース・スタディ	藤野美都子・福田俊章・末永恵子
5	11月30日3限	臨床倫理を考える②	代理出産	藤野美都子・福田俊章・末永恵子
6	11月30日4限	薬害から学ぶ	薬害被害者のお話を聞く	菅野佐智子
7	12月7日 3限	先端医療の現実(1)	脳死・臓器移植について考える	村口至
8	12月7日 4限	先端医療の現実(2)	脳死・臓器移植について考える	吉開俊一
9	12月14日3限	遺伝カウンセリング	遺伝病の告知・遺伝カウンセリング	鈴木真一
10	12月14日4限	再生医療をめぐる倫理的諸問題	再生医療	福田俊章
11	12月21日3限	新薬の臨床試験	治験と臨床倫理	稲野彰洋
12	12月21日4限	総括討論	模擬倫理委員会	藤野美都子・福田俊章・末永恵子

《臨床倫理授業担当者一覧》

横田素美	看護学部基礎看護学部門教授
樋野興夫	順天堂大学医学部病理腫瘍学講座教授
菅野佐智子	薬害肝炎訴訟原告団(全国薬害被害者団体連絡協議会)
村口至	坂総合病院名誉院長
吉開俊一	国家公務員共済組合連合会新小倉病院脳神経外科部長
鈴木真一	医学部器官制御外科学講座教授
稲野彰洋	福島県立医科大学附属病院治験センター次長
末永恵子	医学部人間科学講座(人文社会)講師
福田俊章	医学部人間科学講座(人文社会)准教授
藤野美都子	医学部人間科学講座(人文社会)教授

科目・コース(ユニット)名	医療入門1 (プライマリ・ケアと地域医療)【医学4】						
(英語名称)							
担当責任者	葛西 龍樹						
開講年次	4年	開講学期	3期	必修/選択	必修	授業形態	講義

概要/方針等

地域医療の崩壊を防ぎ、地域住民のニーズに沿った質の高いプライマリ・ケアを実践するには、「家庭医療」の原理を十分に学んで、それを実際に地域で展開していくことが必須です。このユニットでは、「家庭医療」という日本ではまだ十分には浸透していない新しい医療について、平成18年から全国の大学医学部に先駆けて、系統的に学ぶ機会を提供しています。将来医学医療のどの分野へ進む医学生にとっても、「家庭医療」を理解することは役に立ちます。その理解が無理なく進むように、興味の湧くケースを通して考えたり、映画の一部を用いた教育(シネメデュケーション)、ロールプレイ、グループ・ディスカッションなどを用いた授業を展開します。

学習目標

【一般目標】

将来質の高いプライマリ・ケアを担当するため、もしくはプライマリ・ケアを担当する医師ら協働できるための基本的知識基盤として、「家庭医療」の専門性を理解する。

【行動目標】

- 1 「家庭医療」の定義を説明し、何故日本の地域に「家庭医療」が必要なのかを考えることができる。
- 2 地域における2種類の医師の協働について説明できる。
- 3 「患者中心の医療の方法」を6つのコンポーネントを用いて説明できる。
- 4 「家族志向ケア」について説明し、ケアのための各種ツールをそれらの特長を理解して使用できる。
- 5 「癒す者」と「癒される者」の関係について考えることができる。
- 6 「アクティブ・リスニング」を用いて病気の経験を探ることができる。
- 7 「家庭医療」でどのようにEBM (evidence-based medicine) を実践するかを説明できる。
- 8 「家庭医療」でどのようにNBM (narrative-based medicine) を実践するかを説明できる。
- 9 「家庭医療」が重視する予防、健康維持・増進と行動変容へのアプローチについて説明できる。
- 10 「学習者中心の臨床教育」を6つのコンポーネントを用いて説明できる。

テキスト	1. 家庭医療～家庭医をめざす人・家庭医と働く人のために～ (ライフメディコム) 2. スタンダード家庭医療マニュアル (永井書店)
参考書	A Textbook of Family Medicine (Oxford University Press)
評価方法	授業の評価は平常点、レポート、試験その他の方法により総合的に判定される。
その他(メッセージ等)	福島県立医科大学では、県内に広がる新しい地域医療の診療・教育システムを構築するため、平成18年から「家庭医療」を推進しています。これは日本の大学医学部としては最初の事です。従来から日本の大学医学部などにある曖昧な「総合診療」ではなく、定義の明らかな世界標準の「家庭医療」を学んで、それを地域で実践できる機会を医学部の卒前教育・初期研修・後期研修を通じて提供しています。「家庭医療」に興味を持ち、積極的に学んでもらえることを期待しています。

授業計画/担当教員等

【授業計画】

- 1回: 11月16日(金)1時限
項目: 家庭医療
内容(キーワード等): 家庭医療とは/世界の家庭医療/日本の家庭医療
- 2回: 11月16日(金)2時限
項目: 地域医療
内容(キーワード等): 2種類の医師の協働/「ポピュレーション・サイエンス」という視点/地域ケア・ネットワーク/家庭医が実践する在宅ケア
- 3回: 11月19日(月)1時限
項目: 患者中心の医療の方法
内容(キーワード等): 患者中心の医療の起源/患者中心の医療の方法の6つのコンポーネント
- 4回: 11月19日(月)2時限

項目: 家族志向ケア

内容(キーワード等): 家族とは何か/ファミリー・ライフサイクル/家族図/「DR. FAMILY」のアプローチ

5回: 11月26日(月)1時限

項目: 癒すことを学ぶ

内容(キーワード等): 医師になるために通過する3つの段階/「あなたはどのように苦しいのですか」/癒す者と癒される者

6回: 11月26日(月)2時限

項目: コミュニケーション

内容(キーワード等): アクティブ・リスニング/病気の経験を探る/解釈・期待・感情・影響

7回: 12月 3日(月)1時限

項目: 家庭医療とEBM

内容(キーワード等): EBM(evidence-based medicine)とは/EBM の5つのステップ/「症例からの学び」

8回: 12月 3日(月)2時限

項目: 家庭医療とNBM

内容(キーワード等): NBM(narrative-based medicine)とは/言葉・対話・物語/物語の持つ癒す力

9回: 12月10日(月)1時限

項目: 予防、健康維持・増進

内容(キーワード等): 家庭医が実践する予防、健康維持・増進/患者教育/行動変容へのアプローチ

10回: 12月10日(月)2時限

項目: 学習者中心の臨床教育

内容(キーワード等): 教育の新しいパラダイム/家庭医の教育と評価/メンターシップ

【担当教員一覧】

葛西 龍樹/教授/地域・家庭医療学講座

石井 敦/助教/地域・家庭医療学講座

川井 巧/助教/地域・家庭医療学講座

高澤奈緒美/助手/地域・家庭医療学講座

菅家 智史/助手/地域・家庭医療学講座